

367

161

特249

694

パンフレット叢書

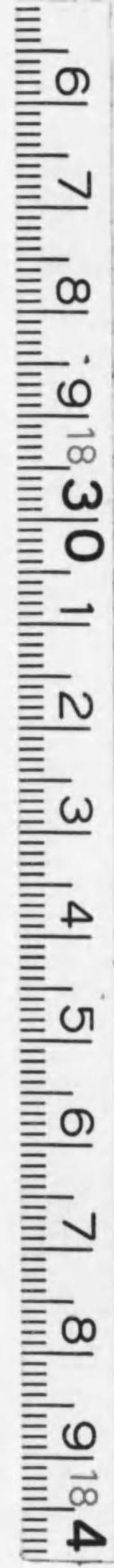
第一輯

神仙の秘區・人類信仰の家郷

# 石城山と天行居



發行 居行天道神



# 始



時249  
694

# 十の神訓

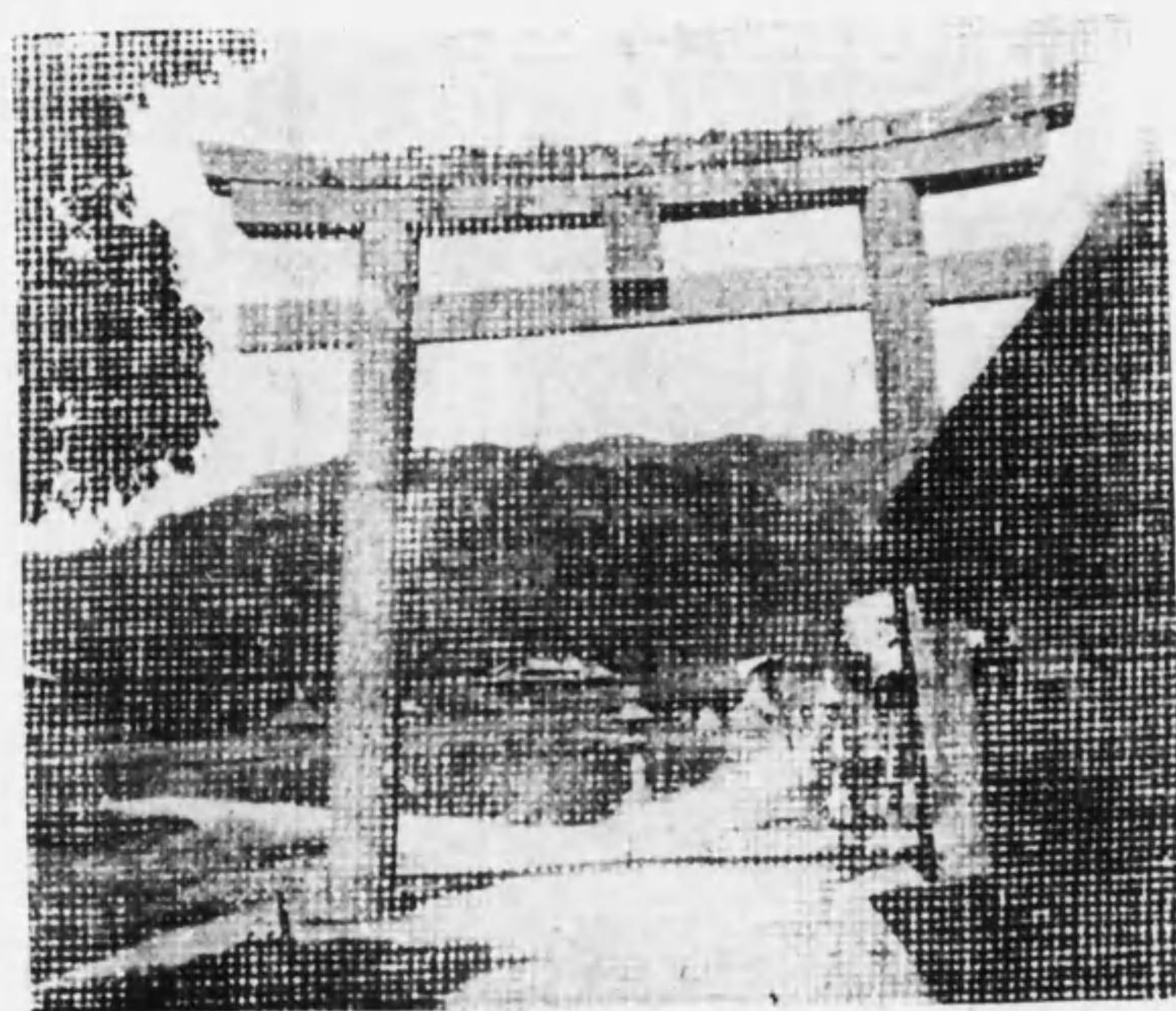
——(山上の天啓)——

ひ ひとのみちをつくしてかみにたのめ  
 ふ ふるひにかけてよをきよめる  
 み みをわすれてみちをふめ  
 よ よのかはりめのため  
 い いはさかをまもりきた  
 む むかしのおほかみたち  
 な なりませしかみのやま  
 や やまとをひらきていはとをひらけ  
 こ このやまかくりよのみやこ  
 と とこたちのかみのいはくら

昭和二年十一月二十二日未刻

石城山上にて

氣 玉 彦



▷ 大鳥居より石城山を望む ◁

天行居パンフレット叢書

第一冊



## 石城山と天行居

人類信仰の家郷

大日本周防國石城山

神道天行居發行



# 石城山と天行居

## 目次

目次

- 一、非常・闇黒・不安時代……………(一)
- 二、闇黒の聖火・天行居の出現……………(七)
- 三、天行居の學統とその先達……………(三)
- 四、地上一系唯一の太古神法……………(五)
- 五、神璽・神寶の頻々たる降下……………(元)
- 六、神仙の祕區・石城山……………(三)

目次

- 七、天行居出現の使命……………(七)
- 八、神なる大日本天皇……………(壹)
- 九、天關打開——地上大修禊と大日本天皇……………(四)
- 一〇、天關打開と天行神軍及び其の使命……………(壹)
- 一一、人類歸幽後の世界——天行居同志と石城島神社……………(天)
- 一二、修齋會と神法の相傳……………(充)
- 一三、神道天行居の組織……………(夫)
- 一四、結縁の手續……………(凸)

奇麗なる神縁によつて此の小篇を手になされた貴下の御道編を讀んで親しいたします。本書は題意の示すやうに、太古以来の神仙の秘蔵たる石城山の因縁と、世界人類の精神的家郷として出現を命ぜられたる天行居の輪郭を手取り早く知つていたゞく爲めに天行居出現以来の總出版物を最小限度に縮約したものであります。卒然として之れを讀めば怪文書の如く巖然として之れを讀めばお淨先の如しといふのが本書に對する貴下の評言であるかも知れません。幸ひにして貴下が一つの世界と人間世界との交渉を知らんとせられるならば、もう一步前へ踏み出していたゞきたいのであります。即ち、神道靈學の大體を知らんとせられるならば『靈學聖蹟』を、皇國の神法に興味を有せられるならば『天行林』を、皇國の古神道に見參せられんとするならば『古神道秘説』を、生きたる敬神尊皇を實踐せられんとするならば『神界の經緯と天行居の出現』を讀讀していたゞきたいのであります。若し本書を讀まれて胸底の琴線に觸れる何ものもない無らば未だ神機が熟して居ないのでありますから有縁の然るべき人へ譲つていたゞきたいと存じます。固より所藏される事も貴下の御自由でありますから、將來物質的に或ひは精神的に行詰りが來た時に本書を取り出して熟讀していたゞきます。その時此の小篇の文字は一字々々光明を放つて貴下の行く手を照らすであらうことを確信いたします。(桃)

# 石城山と神道天行居

神道天行居編

## 一、非常・闇黒・不安時代

客『非常時といふ言葉が叫ばれるやうになつてから相當久しいものですが、世は平和論者の理想に反して、皮肉にも非常時材料は次ぎ／＼に提出せられ、世界の人心は極度の不安に恟々として居ります。この時に當つて世界各地に於て各種の宗教運動が活潑に行はれ、又た到る處に宗教類似のものが發生してまゐりましたのは極めて當然の現象であると思ひますが、日本に於けるそれらの團體の動向に就て見ましても、それらのいづれもが濃淡の差こそあれ、それ／＼の立場に於て國家意識に基いて活動して居るといふことは注目に値すると思ひます。』

對『なるほど表面だけ見ますと、聖典の研究や解義は近來にない盛況で、相當に讀まれ、また聽かれても居りますけれども果して現代多數の人々はそれらによつて眞の安心を得て居るでありま

せうか。復興されつゝあるといふ各種各派の宗教は、何ものかを掴まんとして摸索して居る人類に與ふべき何物を持ち合せて居るでせうか。飢ゑたる世界の衆生は充たされざる心を抱いて、不安に戦きつゝ甲から乙へ乙から丙へと流浪して居るといふのが現實ではないでせうか。滿洲事變を境として世界の舞臺が一轉いたしまして「超國家」を看板として居た所謂世界的宗教が「國家」に膝を屈するに至りましたことは、確かに注目し値いたします。それが一時的のカムフラージであるか、又は日本固有の精神への習合であるかは詮索の餘地があるとしても、兎に角今日の景氣のいゝ宗教運動なるものは、昔の儘のもの單なる「復興」ではないやうであります。既成宗教に新たなる血が流れ始めたのと時を同うして、都市に農村に山間に各種の靈團が簇生して参りましたが、それらも少くとも外觀から認識し得る限りに於ては現代思潮の洗禮を多分に受けて居るやうであります。今後既成の教團は益々その教線を張り、新らしき教團は益々増加して喧噪を極め、人は愈々その歸趨に困惑するに至りませうが、それらを單に安心を失つた人類の意念が作り出したものとのみ観るのは當りませぬ。それらはいづれも出づべきものが、出づべき時にでて、騒ぐだけ騒いで居るものでありまして、空前の非常時に於ては當然のことです。『非常時』といふ言葉も既に常套語となつた觀がありますけれども非常時は今尙行進を續

けて居るといふことは何人も承認するところでありませんが、一般の人々は此の「非常時」をどういふ風に認識して居るのでせうか。』

客『それは言ふまでもなく、華府條約廢棄通告、聯盟離脱、通商問題等を因子とする深刻微妙なる世界各國の對立關係より來る大國難時代を申すことは説明する迄もあります。』

對『なるほど一九三六年の危局といふことは、何人も肯定いたします。私どもも近き將來に於て日本が多數の國々を相手に深刻無比なる戦争をしなければならぬ事を認めます。それが三六年であるか三八年であるかは兎も角として、人類の理想や希望に關係なく世界大戰の幕が切つて落されることを肯定致します。然し私どもは來るべき戦争に就ての判断の基礎といふものを、單に經濟的、民族的、感情的理由にのみ置いて居るのではなく、その靈的因縁を重大視して居るのであります。』

客『來るべき戦争の靈的因縁とは何ういふことですか。』

對『それはかうです。試みに靜かに現代世界を通過して御覽なさい。表面まことに立派やかに見える文明世界も一枚のヴェールを取つて見ましたならば、何人も慄然たらざるを得ないであります。單に日本だけに就て見ましても、世は非常時といひ日本主義の黃金時代と申しながら國民の

何パーセントが確固たる日本魂を把握して居りますか。日本精神を語り敬神尊皇を叫ぶその同じ口は、カッフェにダンスホールに神を嘲笑してやまないのです。世の権力あるものは権力に、財力あるものは財力に、武力あるものは武力に、知識あるものは知識に絶対の價値を認めて人間を至上絶対の者と妄信して怪しまないのであります。

人倫は紊れに紊れ、社會の綱紀は辛うじて法律と軍隊とによつて維持せられつゝあるに過ぎないので、人間生活の道德的レベル、否、眞の人間のレベルは今や氷點以下に降りつゝあるのであります。此の時に於て世の中に神といふものが無くば兎も角、人類及び人類世界を攝理し守護する神ありとすれば、これを放任黙過せられる筈はないのであります。神の有無に就ては神人分離以後、神と人との現界的交渉が少なくなるにつれ有神、無神の論争を繰り返して居りますけれども、それらに關係なく、神界の經綸は極めて嚴かに進行し、神國日本の登場、滿洲事變、國際聯盟離脱、華府條約廢棄通告となり、世界の一大不安時代となりました。今や全人類を乗せた船は一大暗礁に向つて行進して居るので、茲に全人類が急角度の方向轉換を行はなければならぬ一大場面が數學的な確實性あるプランによつて目前に近接して參つたのであります。かういふことはこの七八十年來内外各地の宗教又は宗教類似團體によつてその片鱗は相當に叫ばれて來たのであ

りまするが、要するに神威による地上大革正のために未曾有の大戦が起り之に幾多の神異現象が伴ふといふのであります。現代世界の人類が淺間しくも墮落の一路を辿つて居ることは誰れよりも人類が一番よく知つて居りますが如く、水に流されても火に焼かれても文句の言へない状態でありますが、さりとて神界に於ては此の人間世界の亂脈状態を御覽になつて急に地上整理のプランを立てられたのではなく、それは數千年來の「神界の經綸」であります。その經綸の實現期が近づいて來ましたので此の七、八十年來神通的 능력ある世界各種の靈團が一齊に騒ぎ出したのであります。彼等は正神界經綸の一部を聞き囁つて早手廻しに色々のことを口走つて居りますけれども、孰れも正しい消息は分つてゐないやうであります。

彼等の或る者は神意によつて一瞬にして地上は清められ天國が地上に移されるやうなことを申しますけれども、いかに天意なればとて地上の大修禩と天國の建設とが人類に無關係に一方的に運ばれるといふやうな他愛もないことではなく、戦争は深刻を極め、水火は地上大半の生物を亡ぼし、その前後には覺醒せる人類の眞面目な努力を必要とする極めて現實的なものであります。かくして此の地上の世界は、大日本天皇の大御旗の下に修理固成されるのであります。そのためには正神界の意思を奉じて現界的施設に任ずる人類の捨身の奉公が、要求されて居るのであり

まして、其の要求に應ずることを一面の使命として、こゝに我が神道天行居は正神界のみよさしのまに／＼此の天地間に出現したのであります。』

客『さういふことは世界各地の靈的團體がまことしやかに唱道して、常に識者の警覺を買つて來た痴人の夢談ではありませんか。』

今尙歐洲の精靈研究會などでは、近き將來に於て世界は風水地震に見舞はれ、陸地と海洋は到る處に於てその位置を換へ、人類の大半は絶滅するなどと申して居りますけれども、權威ある地震學者は地質學上の根據がないと言つて一笑に附して居るではありませんか。日本ではさういふことを口走る團體は先年既に終熄してしまつたかと思つて居ましたが、此の非常時代にまだそんなことを言つて居る團體があるのですね。神道天行居なんかあまり聞かない名ですが、一たいどういふ團體ですか。』

對『さう一概に言つたものではありません。既往に於ける平觀の徒の豫言は別として、此のことは現代人の認識して居る「非常時」と重大必至の關係がありまして、斷じて痴人の夢物語ではありません。天行居といふ名稱は始めて耳にせられたかも知れませんが、昨今の國家主義に刺戟されて出現したのではないのであります。天行居出現の理由を眞面目に傾聽されるならば此の

「空前の非常時」の正體も正しく理解されるだらうと思ひます。』

## 二、闇黒の聖火・天行居の出現

對『天行居』はアノノカリトコと訓み、天神地祇の來往集合あらせられる處といふ意味で、神靈學的見地から皇國固有の古神道を宇内に宣揚して、特殊の使命を達成せんとする神祇奉祀團體であります。天行居が今日の如き組織形態を以て、神々のみよさしのまに／＼現界に出現したのは漸く昭和三年のことです。然らば天行居は何等の母胎も種子もなく突如として出現したのかといふと、さうではありません。神道天行居を發生的に詮索すれば、周防の國宮市の人にして隠れたる古神道、靈學の權威友清歡眞先生を中心とする格神會に出發して居るといふことが出來ます。しかし、格神會は最初から宗教團體でもなければ宗教團體たらしめんとして組織されたものでもなく、純然たる古神道の立場から靈學を研究し以て皇道の精髓を中外に宣揚せんとする同志が友清先生の文書に依る指導を受けて居たに過ぎません。當時に於ては會員が團體行動をしたこともなければ會同した事實もなく、學問的良心によつて結合された古神道の研究團體でありました。従つて世の中の宗教團體に對しては、その正邪高下を問はず、それらの存在に何等の興味も

希望も有せず、たゞ會員に對しては敬神尊皇修善積徳を唱導し先哲の残された傳によつて馬鹿正直に修業し、伊勢出雲を始め各地の名社大社と産土神とを崇敬すべきことを力説して來たのであります。それで、友清先生は當時の心境について「天行林」や「古神道秘説」に再三表明して居られます。その一節に

「わたくしどもは先年來しばしば聲明して來ました通り、世間流行の教會じみたものをつくるのが目的でなく、多くの人々を参拜せしむる殿堂を築くやうなことは、只今のところ考へておられませんので祭祀の神々を御披露する必要もなく、又それは神界から御許しにならないことでもあります。神界の思召を推測いたしますと、種々の教會じみた神殿を拵へたり一般の参拜者を迎へるやうなことをすると伊勢大神宮や出雲大社を始め古始太元からの産靈紋理により然るべき時期に然るべき地點に鎮齋してある古來各地の諸神社を知らず識らず輕んずるやうになり、各自々々向き／＼に寄集へる教會じみた神殿を唯一無二の有難い聖域と考へるやうになり、そのために却て神威を冒瀆する結果となり靈界の秩序を紊ることも及びますので、正神界に於ては濫りに一般人を参拜せしむるやうな殿堂じみたものを作ること御歡びにならないのだらうと思はれます。……」（古神道秘説一一五頁）

然るに如何なる神機の動きによるものか堀天龍齋翁によつて言はまくも畏き 豐受姫大神の神聖が天行居の神殿に渡御せられ或は中部山岳の白馬岳に白馬岳神社が造營せられ、大日岳には五十三貫八百目の天行鉾が屹立して遠く太平洋に相對するやら、神界の密封命令は次ぎ／＼に開かれ、天行居の内外は俄然として思ひも設けざる活況を呈するに至り、天行居を知る程の人は悉く目をみはり

「あなたは先年、天行居は教會神道的のものでないことを何度も聲明せられたやうですが、近來の天行居内外の消息を綜合して見ると、何だか段々一種の教會神道じみたものに近よせて行かれるやうですが如何ですか、又今後神社のやうなものとは絶対に立てられませんか。」

といふやうな質問を寄せられるに至りました。これに對して昭和三年一月の「古道」には次の如く答へてあります。

「それはいつぞやも申上げた如く何とも申上げられません。握らされてる神界の密封命令書を開いてみる毎に、自分でもまごつく事がありますので、今後どういふ事になるか一切只今から申上げられません。先年の聲明は先年の聲明として眞實であり、今日の聲明は今日の聲明として眞實であります。此の點に於て俯仰天地に恥ぢません。また活動上の形式が如何に變遷しまし



ても天行居の傳統的大精神ともいふべきものには何等の動搖もありません。又た今後社殿の様  
なものを造るか何うか、そんなことも全く分りません。……(中略)天行居は既成教派の有  
せざるものを有し、特別の使命を有するものであります。私どもの奉ずる神傳のものは極め  
て古いものであると同時に、私共の首倡する神道は飽く迄新鮮なものであり、辿るべき足痕の  
ない道を辿りつゝありますので、玄人らしい所は何處にもないのが特色で、天行居の神道はア  
マチユアの神道であります。——〔古道〕一六九號及び「古神道秘説」二〇三頁参照)……」

客『では、神傳靈學の研究團體がどういふ事情によつて今日のやうな形式——内容の點は兎に角と  
して——を取るやうになつたのですか。』

對『それは追々中上げますが、抑も天行居が正神界から或る種の使命を負はされて居ることを薄々  
感得するやうになつたのは大正十四年前後からで、時節のめぐるにつれて曉闇の薄雲は次第には  
れ、正神界の經綸による大神業の負擔者として、のつびきならぬ立場にある天行居を白日の下に  
見出したのは昭和二年のことであります。

最初から教團的運動に従事することを忌み嫌つた天行居が兎も角も宗教團體的行動の形式をと

るに至りましたに就きましては其處に重大なる理由が存するのであります、その理由は私ども  
の側にあるのではなくて「神界の經綸」そのものの中にあることが分つて來たのです。』

客『それでは天行居の主張、信仰は—たい何んなものですか。』  
對『(一)天神地祇を敬ひ

(二)大日本天皇を尊び

(三)心を清くして善を行ふ

といふことに要約することが出來ます。斯う云ふとそれは當り前のことを當り前に云つて居る  
までのことだと言ふ人もありません。なるほど、格別新奇な説ではありません。如何なる宗教、  
思想團體又は修養團體でありましてこれに對して異論のあるべき筈はないのであります。けれ  
ども天行居の主張する敬神尊皇修善積徳なるものは、正神界の實相と其の經綸とに立脚して

(一) 皇典明記の神々の御實在を確信し崇敬し

(二) 大日本天皇を天祖の地上に於ける御表現と敬信し、天祖の大豫言たる 大日  
本天皇の世界光臨なる大神業を扶翼し奉り、地上に天國を將來せしめて永  
遠に世界人類信仰の歸正統一を圖る

といふ深く廣い内容を有して居ります。しかも、以上のことは單なる人間の信仰のみによつて達成せられるものではなく、正しき信仰と共に、正しき神法を以て神界の經綸に策應して現界に於てそれ／＼の施設をしなければならぬのであります。我が天行居はその重祕なる神法を預かつて居るのであります。」

### 三 天行居の學統とその先達

客「然らば、天行居の學統は神道學派の何れに屬し、その神法道術は如何なる所傳によるものですか。」

對「思想上から云へば本居・平田系統の學風を承けて居るのであります。本居翁・平田翁の學説と天行居の學説と一致しない條項もあります。さればと言つて外にお勧めする良書もありませんので、從來本平二氏のものを読讀せられるやうに申上げて居りますが、これを以て兩先生を直ちに天行居の直接の先輩であるとは申されません。」

天行居の直接の先輩としては順序として先づ明治初年に於ける神道靈學の權威本田親徳先生を挙げなければなりません。今尙ほ天行居に於ける神道靈學の根本方針は本田先生の遺訓を鐵則と

し、天行居内に組織されて居る格神講の修法傳書は主として本田先生所傳のものであります。次ぎは宮地水位先生であります。先生は土佐の潮江に生を享けられ明治三十七年五十三歳を以て肉體を脱せられました。幼少より和漢文武の道に精勵刻苦せられ、その著書は長持一ぱい半以上に及ぶであらうと計算せられて居るほどで和漢の碩學であり、しかも十一歳の頃から正神界に入せられ、齋らされた神法道術も少なからず、殊に神界出入の手記は「異境備忘録」と題してそれを現界に留められました。その宮地水位先生所傳の神法は靈縁により友清先生によつて天行居に傳はつて居るのであります。次ぎは沖楠五郎先生、堀天龍齋先生であります。沖先生は明治二十一年に上天せられたのでありますが、沖先生から地上一系の太古神法を承けられてそれを天行居に傳へられたのは堀天龍齋先生であります。

以上の諸先達に就て友清先生は「乍憚口上」に於て

「これらの大先達が現界に普通の肉體をもつて居られる間に私が面晤を得たのは堀先生だけであつて本田先生と宮地先生は御歸幽後に於て近年親しく直接に御指教くださっただけの關係である。沖先生には是非一度でも御面晤を得たいと念願して居るが何故か今日まで其の機會を得ずに居る。沖先生は私が此の世に生れるよりも三ヶ月早く地上から姿を消され、本田先生は私

が生れて半年後に、水位先生は私が十七歳の春に歸幽されたので、現界ではどうする機会もあるべき筈がないのである。」(神界の経緯と天行居の出現四五三頁)と述べて居られます。

本田先生、宮地先生、堀先生は現界時代にはお互に何等の連絡なく、その祕事神法等も格別の方面から天行居に承けたのでありますが、その祕事神法等にも有無相通するところがありました。それを総合し組合せると整然たる模様が見えて来るといふ譯で神界のお引き廻しには恐れ入るの外はありません。沖先生に就ては太古神法を堀先生に相傳せられ今から約五十年前に上天せられた神人であることの外はハッキリ致しませぬが、堀先生は昭和三年の秋、沖先生と親しく會談されたさうであります。斯ういふ事は如何にも奇怪に聞えるかも知れませぬが幽顯一如の道理が胆に入れば何んの不思議でもないことでもあります。又沖先生の現界に於ける消息は甚だ詳細を缺いで居りますけれども沖先生の神法衣は現に友清先生の御手許にあるのであります。

以上の諸先生は或は時を隔て、或ひは時を同じうして出現せられました但其れが悉く天行居結成のための正神界の攝理であつたことは、地上一系の「太古神法」相傳の経緯に就て考へらるれば分ることと思ひます。』

#### 四、地上一系唯一の太古神法

對「沖先生も堀先生も實は「太古神法」を天行居に傳へるために取次役として現界に出現せられた方とも見られるのでありますが、然らば「太古神法」とは如何なる神法でありませうか。

世の中には昔から神代以來の神傳へとか何々の祕事とか神祕とか傳へて居るものがありますけれども、それ等は兩部神道系または唯一神道系のもので大部分で、少し古くて五六百年來のものも多くその中にも神道者の偽作も相當に幅を利かせて居り、殊に禁厭に類するものの如きは殆んど徳川時代以降のもので、全然無價値ではありませんけれども取るに足らないものが大部分であります。或は大國主神、少彥名神の所傳で何十代前からの家傳だなどいふものも隨所にあります。が、いづれも近世に於ける産物で、その出現の系統等もたいていきまつたものであります。禁厭法以外の中古以降所傳の神法に就て相當の所傳を得て居る人は今日の日本國に於て十人に足らないのであります。それも神道團體關係者でもなく、神職でもなく神道學者でもない普通の人——農業に従事する人や醫者や職人の家——に傳はつて居るのであります。その相傳者は何れも神威を畏れて家族にも語らないくらいであります。

抑も神法は神と人との契約の符でありますからその法を修することによつて大威力を發するもので今日の濟神の徒の夢想だにし得ざる性質のものであります。中古以來のものでも若しその一法でもが野心家の手に渡つたならば、すさまじき一大宣傳が行はれるでありませうが、神界の御攝理は實に微妙なもので全く世の中に知られない人の手に傳はつて居るのであります。』

客『しかし、今日の神道家又は神道學者などは殆んど神法などの權威を認めてゐないやうで、効力のない禁厭に對する程度の認識しか持合せて居ないではありませんか。事實眞の神法祕事には威力があるものですか。』

對『それは、今日世に寫本や巻物になつて勿體らしく横行して居るのが駄目なだけで、まことの神法といふものは絶對に書き物などに残されないものであります。またムスピカタメによらなければまことの神法に結縁する機會に接近することすら許されないのであります。沖先生より堀先生を経て天行居に拜領いたして居ります太古神法は、中古以來所傳のものとは比較にならない神代以來の祕事祕傳に屬する重祕極まるもので**地上一系絶對唯一の神法**であります。

この太古神法は今から二千年前に太古の神法を繼承せられた倭姫命から傳へられた神法でありまして、代々の紹統者がこれを祕しかくして來られたのであります。かくして近世に至りまし

て今から約五十年前に紀州から昇天せられた沖楠五郎先生といふ大神人に傳へられ、これを堀天龍齋先生が繼承せられ、天龍齋先生はこれを神道天行居の創立者友清歡眞先生に傳へられたのであります。太古神法が堀先生から友清先生へ傳へられたのは御神示によるものであります。ここに面白いのは堀先生と友清先生との御關係であります。

堀先生は最初天行居の一同志として入講されたのであります。當時の機關紙「天行新聞」（古道の前身）百五十四號九頁を見ますと「同志のおもかけ、堀明道氏」として掲げてある紋服姿の寫眞の主は即ち後の堀天龍齋先生ですから驚かされます。これについて友清先生は「乍憚口上に於て

堀先生を私が始めて知つた頃には格別な御方とは夢にも知らず、滑稽な話ではあるが私は先生を普通の同志扱ひにして居た。その頃は私の健康状態も良好であり比較的ひまでもあつたので先生からの質問に對しては忌憚なく説明を書いては返信して居た。ところが先生の質問は段段と機微に觸れて來たので私も少々考へさせられた、「この老人、なか／＼やるぞ。」と思ふ様になつた。そして愈々々々モノでないと感づいたのは大正十五年からであつて、昭和二年になつて謹んで禮をたゞして先生に師事するやうになつた。先生は謙讓溫和の固まりのやうな人で

あつて私が師事するやうになつてからも私に對して門人扱ひは致されなかつた。私からの手紙に「堀……先生」と書く先生から私に宛てた手紙には必ず「……先生閣下」と書かれた。斯ういふことは皮肉の意味でもなく表面の文字の飾りでもなく先生は斯ういふ風な謙遜な態度が誠心誠意から出たのである。先生から私に對して敬語を用ひられることは私としては穴にも入りたい感じがしたけれども先生は改められなかつた。先生と對談するときも先生は必ず私の下座を占められた。いかに圖々しい私でも無論辭退したけれども私が上座に行かぬ限り先生は挨拶もせられないので詮方なく先生の仰せの儘に何處へでもあがり込んだ。誠にいゝ氣なものであつた。……(中略)

先生は少年の時から病弱で蒲柳の質であつたので三十七歳から四十歳の時にわたり一千日間の潔齋をもつて大神聖の修法に當られることは先生の健康状態からは非常な冒険であつた筈であるが其の期間だけが不思議にも元氣で薬一ぶく飲まずに済んだことを何度か私は聞かされた。先生は其の大事を完成されて大きな槍の箱に奉安して密封されて爾來三十年誰れ一人にも其のことを語られず歌道茶道及び野狐禪に隠れて没蹤跡の生活をせられたので先生の周囲の人人も誰れ一人先生の眞骨頭に氣づくものはなかつた。大石内藏助の山科時代の没蹤跡にさへ往

往にしてハラ／＼させられる點があつたやうであるが、先生の没蹤跡は堂に入つたもので、作狂して風流三昧に七十年の生涯を斷送せられたのである。

地上一系の太古神法に就ても他に一人の門人あるなく門人といふ者は私一人で此點が本田先生や水位先生の三千人の門人と對照して一奇とも言へよう。堀先生が預かられた太古神法は所謂一器の水を一器にうつすが如く昭和二年の秋までに一切を擧げて私に付囑せられたのである。先生には篤敬誠實なる令嗣が居られるけれども先生は太古神法に關することだけは一切令嗣にも語られなかつた。木石ならぬ先生であるから恩愛の情は世人と變りはないが大義を明らかにせられること斯くの如きこと、これ私が我れ自らを終生いましむべき第一の要諦である。

(神界の經綸と天行居の出現四六三頁)と……』

## 五、神爾三神寶の頻々たる降下

對『かくの如くにして天行居が地上一系の太古神法を承繼したといふことは天行居が正神界の意思によつて出現した一證據であります、それと前後して高貴なる神聖、神器、神寶が相次いで降下されるに至つたといふことは、神道天行居の出現が正神界の意思たることの動かすべからざる證

據であります。』

客『併し神祇の御靈代といふやうなものは佛教の或る派や基督教の如きに於ては餘り重視して居りませんのみならず、キリスト教的知識の如に芽ばえた世界の宗教學とか比較宗教學とかいふ學問上からいへば、神祇の御靈代といふものは高等宗教の必要條件とはなつて居らぬではありませんか。』

對『それは何れも根柢を誤まれる思想に結實した誤まれる見解でありまして宇宙の眞理は人間の勝手な思案によつて動搖消長するものではありません。伊勢神宮を始め古き尊き神宮神社には必ず古き尊き御靈代が鎮まつて居られるのでありまして(大神神社の如き特例もありますが)原則的には御靈代ありての神宮神社であります。家屋ありとも人が居住しなければ家庭といふものはありません。日本國には三種の神器といふ御靈代と皇室とがあつて始めて日本國の家庭があるので、三種の神器は宇宙正神界の大神祇なのであります。それが日本國に傳はつたといふのは神ながらの産靈紋理の然らしむるところで、宇宙神律の至嚴至正なる公式の答案であります。天行居にはいとも古き尊き大神の御靈代が奇しき産靈紋理によつて鎮まつて居られますが其の中で天照大神の神靈と丹波元伊勢の豐受姫大神の御靈代に就ては「古神道秘説」に洩らしてありますから一讀

して下さる。

この御靈代と最も密接不離の關係のあるのは太古神法でありまして、御靈代の謹修といふことは、この太古神法によらなければなりません。その潔齋、謹修等は總て嚴重を極めたものの由で紹統者外の者が猥りに窺ひ知るべからざるものであります。堀先生の御靈代謹修のことに就て、發表せられて居るところを少し述べて置きます。

申すも畏きことながら伊勢内宮の御鎮座地二ヶ所、伊勢外宮の御鎮座地二ヶ所には太古神法による地下の御靈代が鎮まつてゐられるのであります。其の上に心の御柱を立て其の上に二十年毎に御神殿が立つのであります。心の御柱を立てる作法や其の周圍の土器に神供を盛る行事等はどうか斯うにか其の筋の學者や祀官の家にも傳はり兩宮以外に於ても行はれて居る所もあつて世人はそれを地下の御靈代と誤り心得て居るかのやうであります。御靈代の神法は地上一系の太古神法に屬するもので輕人の窺知を許さざるものであります。この神國傳來の秘事たる地下の御靈代は太古神法の紹統者たる堀天龍齋先生の一千日の大行によつて完成せられたのであります。其の三年間、先生は家人にも世人にも黙々として全精力を集中せられたのであります。

堀先生はそれを組立てるばかりにして別々の櫛の箱に納めて時を待たれること三十年、漸く昭

和二年五月の神示によつてそれが天行居へ鎮まられることが明らかとなつたのであります。

當時の齋主友清先生はその御靈代のことには就ては全然知られなかつたのであります。昭和二年五月二十七日から大患に罹られて七日間の修祓を受けそれから一ヶ月の後に太古神法による大齋と神祇の御訶護とによつて沖先生の神法衣を着て此の神祕の御靈代の組み立を奉仕せられたのであります。

けれどもそれが何處にお鎮まりになるものやら一向分りませんので御種代の中に納めて假りに當時の天行居齋主寮（宮市）の神床下に奉安して時節を待たれる事になりました。やがて昭和二年には「全國神社のお庭石を集めよ」との神示がありましたので、これを「古道」紙上に發表致しますと、全國の同志から續々とお庭石を送つて参りました。しかし、そのお庭石が如何なる用に供せられるものやら、また次ぎ／＼に天行居に遷御せられました世にも尊き御靈代や神器神物を何處に鎮祀申上げてよいものやら皆目見當がつかなくたのであります。

## 六、神仙の秘區・石城山

對『昭和二年十月友清齋主は伊勢神宮並びに明治神宮に參拜せられ、東京に於て當時の副齋主荒井

道雄氏と數日間會見せられました。が、神宮問題や集まりつゝあるお庭石の始末に就ての質問には齋主も閉口せられ

「何度も神示を伺つたけれども明かなる御示しがない。いづれにしても富士山に關係あるものと思はれるから、まあ富士の裾野あたりの適當な地點を踏査して置いて呉れませんか。」

といふ程度の随分漠然たる話でありました。然るに荒井氏が未だ踏査に着手せられない昭和二年十一月二十一日午前零時半、齋主は突如として一大靈感に接せられました。

同日午前八時—十時にわたつて更に一層明確なる啓示を受けられて十年の疑問は一時に解決したのであります。

**周防の石城山**、……周防の石城山が即ち神祇の指し示し給ふ山でありました。意外とも意外、周防の石城山は宮市の齋主寮から僅か十里ばかりの東方にある一見極めて平凡なる山であります。

翌日即ち昭和二年十一月二十二日友清齋主は單身始めて周防國石城山に登山せられました。山は當時も今も大差なき平々凡々たる山であります。友清先生は當日の未の刻、山上に於て卷頭の「十の御訓」（山上の天啓）を受けられ、こゝに周防の石城山が太古以來準備されたる因縁の聖地

であつて神仙の秘區なることが明らかになつたのであります。飛報に接して荒井副齋主は同月二十七日宮市に到着せられ、翌二十八日齋主と共に石城山に登山せられたのであります。それ以來の天行居内外の活動が目まぐるしく展開せられたことは申すまでもありません。

石城山は周防國熊毛郡田布施驛の北二十丁の地點にある三百五十二メートルの山であります。その中腹は石だたみによつて圍繞せられ所謂神籠石を成しその完全なる形態は神籠石中の白眉と稱せられて居りますが、その神籠石を神祕化せんとするにも、俗眼を以て一見すれば餘りにありふれた山であります。山高からず森深からず、格別の奇巖怪石あるなく大樹名木あるなく、溪泉の幽趣も飛瀑の雄觀もなく、半面は小松林、半面は杉檜と雑木の林に圍まれて居ります。たゞ茲に一奇とも申すべきは山上に縣社石城神社が御鎮座あらせられることとあります。御祭神は神界に於ける先がけの神、道びらきの神にまします大山祇神でゐらせられ、延喜式内の古社であります。現在は縣社であります。海軍問題のやかましい今日、同社の拜殿の神額が東郷元帥の揮毫になつて居るのを拜するの奇しき因縁であります。

石城神社の東南、約二丁ばかりの地點に、木花開耶姫命、磐長姫命を御祭神とする宇和奈利

社の御鎮座を拜するのであります。石城神社の御祭神との御關係上さもあるべきことと思はれます。宇和奈利の御社から少し山路を廻つて北に参りますと、天孫瓊々杵尊を祀る御社―若宮社を松林の中に拜することが出来ます。宇和奈利社、若宮社ともに只今は石宮に荒廢せられて居りますけれども其の御鎮座は相當に古いものと想像せられます。天行居で奉齋いたしました日本神社は若宮社から路を隔て、東南に當り、五十猛神社は若宮社の東に隣り、石城島神社はその西方の一段低い地點に鎮齋してあります。

石城山程度の山は附近にも澤山見られますけれども此の山の一つの特徴ともいふべきものは、山上が相當廣い平地になつて居ることとあります。山麓から山上を望見いたしますと恰かも山頂を截り取つたかの如く見えるのであります。此の山上の平地から少し下りますと完全なる「神籠石」が蜿蜒として以上の神社を取り圍んで居ります。此の神籠石に就ては専門學者間に大體二様の説が行はれ、神籠石の東西南北に設けられてゐる四つの穴に關しても色々な説が立てられて居ります。石城神社の東北に位する穴は「山姥の穴」と稱せられ、その穴は山の中心に向つて居るやうであります。此の穴に就ては興味ある傳説があるのであります。

### 山姥の傳説



石城神社は式内の古社でありますが、大昔の祭典の際は祭器の如きも充分でなかつたと思えて、祭典の前日に山姥の穴に向つて必要なイハヒベの借用を申し込んだものであります。その手續は神職が願文を認めて山姥の穴に捧げて置くと祭典當日に必要なイハヒベが窟の前に揃へてあるのが例でありました。然るに或る年の祭典に、不心得な神職が、借用した祭器中の一つの壺をワザと取り残して返しました。するとその夜一人の山姥が神職の夢枕に現はれて祭器を私した罪を厳しく責め、それからは如何に願文を捧げても何等の應へもなくなつたといふことであります。

一説には、祭器を破損の儘返却したので山姥の怒りを買つて爾後の交渉が斷絶したとも傳へられて居ります。此の神籠石の四つの穴に就ては、讀人知らずの古歌に

歴りにけり石城の山の神垣の四つの窟の幾代久しき

とありますが、古來右の傳説以外のことは依然として神祕の几帳に鎖されて居ります。

### 西の富士 〓 石城山

石城山参拜案内記（大正七年發行）を見ますと

此の山を俗に西の富士と申し傳へて古歌に

その名さへ西の富士といふ岩城山いはねとしるき山祇の神

とあり山頂に延喜式の石城神社が鎮座してある。

と書いてありますが、石城山に就てお示しがある前に富士の裾野を踏査しようとしたことと思ひ合せて「西の富士」とは面白い名であります。ところが何處からどう見ても石城山は富士山らしくないのであります。何れの地方にも何々富士と稱する富士山らしい山がありますやうに周防の國にもモスコシ富士山らしい山があるのに、何故に此の山を特に西の富士と古人は傳へたのでありませうか。

元祿十年九月十日石原河内の自記といふものに石城山について

八方に磐石を疊み四方に窟を構へたる神仙の奇山なり。

と書いてありますが、「神仙の奇山」といひ、巽に申しました讀み人知らずの「石城の山の神垣」といひ兎に角、此の山が神仙に因縁ある靈山であることの傳承は昔からあつたやうであります。

しかしながら天行居の石城山開きは以上のやうな豫備知識の上に計畫せられたものでなく、神籠石の存在以外の傳説傳承はすべて石城山道場開設以後に知り得たことであります。天行居の石

城山に對する認識は正しき神示と傍證とに基くもので、神籠石とかそれを繞る傳説とかに關係のあるものではありませぬけれども、文部省は昭和十年三月十九日附を以て石城山の「神籠石」を一般史蹟に指定いたしました。當局は「神籠石」を何の史蹟として指定したのか存じませぬけれども、兎に角、石城山が普通の山でないといふことは公的に認められた譯であります。

### 道場の開設と

#### 日本神社奉齋

昭和二年十一月二十一日の神示及び翌二十二日の「山上の天啓」とによつて石城山が「地の神界大都の現世界に於ける表現地」たることが明らかになりましたので、天行居では直ちに山上及び山麓の主要地點の買収に着手し、山麓土着の人々の驚異の裡に、昭和三年六月六日、神道天行居道場は石城山麓に開設せられ、こゝに神道天行居の歴史上に明確なる一線が劃せられました。つまり、天行居はその本來の大使命を自覺して飛躍一番、別乾坤に躍り出たのであります。昭和三年以前に於ける天行居が山の芋であるならば、それ以後の天行居は鰻に化したのであります。山の芋時代の天行居と鰻時代の天行居との間にはその信念、目的の根柢に於て脈絡はありますけれども、その廣表、強度、形態に於ては全然一變してしまつたのであります。

爾來、周防の宮市で取扱はれて居た天行居の事務は全部石城山本部に移され、宮市の舊天行居は天行居齋主寮と呼ばれるやうになり、昭和三年七月には、天行居出現の使命達成のため神示によつて「天行神軍」が組織せられ、超えて昭和四年七月七日には天行居の鐵則たる「神道天行居憲範」が制定せられて天行居が天下の公器たることが中外に闡明せられ、さらに昭和四年の十月には日本神社の御竣功を拜し、堀先生が三年の不行によつて完成せられ、友清先生が組み立てられた地下の大神璽は、その他の御神物と共に枉事なく地下の齋窟に鎮座せられ、その周圍は全國神社のお庭石を以て埋め奉り、昭和四年十一月十一日夜、靈隱兩界の主宰神に坐す 天照大御神を始め奉り歴代皇孫命、天地八百萬神を御祭神とする世界總鎮護の日本神社は、天地萬神の訶護幽贊と全國同志の涙ぐましき奉仕とによつて石城山上に奉齋せられたのであります。

其の後神祇のみよさしのまに／＼石城山上には五十猛神社、石城島神社の御鎮座を拜するに至りましたが、山麓の道場は昭和三年七月以來、忠魂義膽の徹底的覺成道場として、求道心に燃え立つ熱烈なる同志を指導するために毎月修齋會を開き、また靈的國防の命令一たび天行神軍に下さるゝや「山上夜間特別修法」の執行となり、或ひは白頭山頂天池その他海陸須要の地に於ける幽秘なる神事の執行となつたのであります。

私どもは、もはや世人の顔色を顧みる暇もなく天行居出現の使命を黙々としてしかも着々と實行して居るのでありますが、未だ山の芋が漸く鰻になつた許りで外形的には極めてさゝやかなる團體であります。けれどもその出現の使命たるや極めて重且つ大なるものがあります。やがて此の鰻は千尋の淵に入り、風雲に際會すれば龍と化して上天いたします。今日の鰻時代から回顧して山の芋時代の世界が異なるが如くに、將來に於て化龍上天の時代は又た今日とは全然別乾坤でありまして、雷火轟き雲霧四海に布くの壯觀は今日より想像も及ばざるものであります。』

## 七、天行居出現の使命

客『以上のお話によつて神道天行居出現の動機及びその経過は了解いたしましたでしたが、神道天行居出現の特殊の使命といふものは一たい何んでありますか、簡単に承りたいものです。』

對『天行居出現の使命は大體二つに分けられるやうであります——勿論これは認識上の便宜によるものであります。彼此相關聯して天行居の使命を成して居るものではありませんが——その一つは「山上の天啓」に基き地上の神界大都たる

神集岳の顯界に於ける齋庭として石城山の經營を完成し

古神道を宣揚して世界人類の生死流轉に關する信仰の歸趨を明確ならしむるにあります。

も一つの使命はなんであるかと申しますと、

世界の大地に策應して靈的國防網を完成することです。

後者は季節的なものであります。前者は殆んど年月に無交渉なる永遠的なものであります。此の世界には佛敎流の靈界もありキリスト敎流の靈界もあり其の他にも大小高下正邪善惡さまざまの靈界が存在して、それ／＼勝手なことを顯界に放送して居りますけれども、大宇宙に於ける地の神界中央大都すなはち地球に屬する一切神界の根本組織の中央執行機關ともいふべきところは神集岳神界であります。けれどもそれは顯界的の存在でないために、總ての人類の耳目に其の存在を認識せしめることが困難な爲めに、何千年、恐らくは何萬年前からの神界の經綸によつて神集岳の顯界に於ける齋庭として石城山を地上人類のために提供せられたのであります。』

客『神集岳とは一たい何處にあるのですか、又た神集岳の顯界的齋庭が石城山であるとは何を根據に主張せられるのですか、若し石城山が地の神界大都の表現地であるならば、伊勢や出雲を中心とする神界と對抗的な存在となり、天行居が教會的組織を避けられた當初の重大なる理由の一つ

に抵觸することになるやうですが………。』

對「大體に於て神界——幽界とでも申した方がいゝかも知れませんが——は八通りに分れ、それも更らに數百千の段階に分れて居りますが、この宇宙の根本神界といふのは私共の方では

**天津眞北の高天の原**と申して居ります。平田先生の言はれた北極紫微宮でありまして先輩の齋らされた貴重な報告によりますれば、そこは山川草木宮殿莊麗を極め、最上の宮殿には天御中主神様始め宇宙の大神達が鎮られ歴史上の人物等も任官して居られますが、茲に特に注意を要することは、毎年一月一日に莊嚴なる參朝の儀式が行はれ、當日は總ての幽界の代表者ともいふべき神々が參朝せられ、その時には日本の神典明記の神々のみならず、西洋の神々や支那印度方面の神仙の代表も參朝されるといふことであります。その次ぎの神界とも謂ふべきものは太陽神界でありまして私どもの方で

**天津日の高天の原**と稱んで居りますが、こゝにも皇典明記の高貴なる神々がましますのであります。古來俗間に於ては太陽をそのまゝ、天照大御神様と敬信して居りますけれども、太陽そのものは天祖とは申されないであります。太陽を直ちに天祖と拜する信仰は、太陽神界と天祖との重大なる御關係の或る實相に就ての古傳に由來するのではないかと考へられます。

私共は天祖の御靈徳を太陽にたとへたといふ俗説は信じ得ないのであります。以上の二神界はどちらも天上の神界ともいふべき神界でありますが、此の大地には大地の屬する地の根本神界といふのがありまして、これは

**神集岳神界**と呼ばれる神界であります。私どもは、敷島の神の都（石城島神界）と申して居りますが、此の神集岳神界に關することは古來人類社會に秘められて居つたのであります。此の神集岳神界の神祕の鍵を握らされたのが天行居でありまして、石城山は神集岳の現界に於ける齋庭であります。神集岳と呼ぶことに奇異の感を抱かれるならば、高天の原と申しても宜しいのであります。高天の原は一ヶ所に限られたわけではなく、その語義は幾種にも解せられる事は先哲もいふ通りであります。此の地球に屬する生靈一切を統宰せられる神界大府たる高天の原は即ち神集岳でありまして、その中央宮殿たる大永宮には天照大御神様が主宰神としてましますのであります。此の外に萬靈神岳といふ神界がありまして少彥名神を主宰神とし各國の各神界の代表神が參集せられて御評議の上決議されたことは神集岳へ傳達せられることになつて居ります。客「私どもは現界に於ける日本國民の信仰の中心は伊勢神宮であると信じて居るものですが、天行居で神集岳などいふ聞きなれない所謂神界大府を持ち出して來て、その現界的齋庭が「石城山」

であると主張せられることは日本傳統の信仰を紊ることになりはしませんか。」

對「天孫降臨の際、天祖御手づから神鏡を賜ひました時の神勅を拜しましても、伊勢神宮が天照大御神様の御本宮であらせられることは勿論であります。天行居ではその御社格の如何にかゝらず全國各地の神社を特に崇敬すべきことを同志諸君にも小うるさい程に申して居りますが、伊勢神宮が地上の神宮神社の中で尊貴無比の大神宮であることは終始一貫して力説して居るのみならず、天行居で重大事を行ふ場合は必ず伊勢神宮に奉告祈願するのを常として居ります。一般参拜者としても天行居の同志ほどの敬虔なる感情と態度とを以て伊勢神宮に参拜して居る人はさう多くはなからうかと思つて居ります。」

私どもは永遠に伊勢神宮を神聖無二の大神宮と尊崇禮拜いたします。しかしながら伊勢神宮の外には天照大御神様の御宮殿なしとは信じられないのであります。神祇實在の底つ磐根の上に信念の柱を立て、居る私共は、神鏡を天孫に賜ひし大御神は、神鏡奉齋の神宮の外にはましまさぬといふことは信じられないのであります。

かういふ考への上に基礎を置く私共の信仰が、宗教學上または心靈學上どうのかうのといふ事は一切私共の興り知らぬことであります。また天津眞北の神界と太陽神界と地の神界との三段の

神界に就て哲學的技巧を弄することは天行居の使命ではないのであります。私共は神集岳を中心とする活きた神界の實相を地上に宣傳し、此の神界の實相と必至の關係にある眞の敬神尊皇の大思想を地上人類に認知せしむることを使命の中心とするものであります。」

## 八、神なる大日本天皇

客「私は世界各地に於ける宗教に於ていふ創造主とか幽顯の主宰神とかの存在に就ては、一切萬象は神の顯現なりといふ説に異議はありませんけれども「神界」などいふ具體的な別世界の存在はとも信じられません。」

對「ところがあなた方が漫然と不可解な面持で讀過して居られる記紀上代卷の中には隨處に神界の實相が記されて居ります。それを地上顯界の歴史の記録とのみ見ておられるので記紀上代卷の記述は奇怪だといふことになるのです。それは神人分離、即ち顯幽兩界の規則確立以前の傳承を記録した文獻に於ては當然あり得ることなのであります。然らば顯幽の規則確立後はどうかと申しますと原則として顯幽の交通は遮斷せられ神界の實相は顯界には秘せられて居りますけれども時に神人の出現によつてその消息が傳へられ、そこに色々の宗教が興つて居るのであります。私

どもは幸ひにして最も信すべき最も正しき先輩の齎らされた消息と古傳とによつて神界の實在を信じその實相に就て申上げて居りますので、その消息も古い時代に於ける實相の消息ではありません。消息は勿論正しいものでなければなりません、天行居に於けるそれが最も正しいものであることはその確證があるのであります。』

客『では、神界の實相と敬神尊皇とに就てもう少し承りませうか。』

對『天津眞北の神界及び太陽神界のことに就ては簡單に申上げましたが、地上の人類として直接に關係のあるのは地球に屬する神界大府たる神集岳並びに萬靈神岳であります。』

地球に屬する神界——幽界——靈界は文字通り、大小高下正邪善惡幾百千となく數限りもなく縦横に存在して居りますがその統制の根本府は神集岳であります。而して神集岳の中央宮殿たる大永宮にましまして萬機をみそなはし給ふのは、我が大日本天皇陛下の宗祖にわたらせ給ふ天照大御神様であります。萬靈神岳には伊弉諾神様の御代理として少彥名神様がましまして萬國の代表の神々が參集せられそこで評議決定された事項は神集岳へ申達せられるのであります。このことと地の神界大府を天祖が主宰し給ふといふことは、共に世界の人類に至重至大なる關係があるのであります。私共が知り得る限りに於て、また信じ得る限りに於きましては、神々の御意

思は幽幽兩界の大整理を斷行せらるゝにありまして、それが即ち世界空前の大機なのであります。幽界のことは暫らく措きまして、此の地球世界がどういふ工合に整理されるかと申しますると、結局大日本天皇陛下の大御光が地上の全生類に如實に及ぶといふことは既に申上げた通りであります。これを以て荒誕無稽なる愛國者の夢物語となす人は、これ日東聖天子の御本質を正しく理解して居ない人達といふものであります。

大日本天皇は、客觀的人格的に幽幽兩界の主宰神にまします。天照大御神様の御正統にましまして、御即位の瞬間に天祖の靈統をつぎ給ひて、天祖の人間世界に於ける御表現として地上萬類に臨み給ふのであります。恐れ乍ら御歴代の天子様が御肉體の御關係上、又は時世の關係上どういふ御状態に御生活遊ばされようとも三種の神器を承け繼ぎ給うて皇位にまします限り神の王の地上に於ける御表現に坐すのであります。古來天子様を「現人神」と尊び「現津神」と崇め奉りその御座所を「宮」と申上げて居りますのはこの事實に由來するのであります。政治的、倫理的理由による教學の然らしむるところではありません。日本人の純粹無垢なる天皇尊崇に就ては、道理の上から左様であるとか、思想善導や精神作興の方便にとか、神道哲學の認識上に於て左様であるとか、色々に説明されて居りますけれどもそんな机上の思案からは、斷じて「大君は

神にしませば」の感情の流露はあり得ないのであります。古往今來世の中の多くの宗教家や敬神家の中には、自分の奉ずる神や佛陀やゴッドに對しては命がけでありましても、日本天皇陛下に對し奉つては、何等の信仰をも持たない普通人と同様の尊崇心しか持合せない人があります。これは顯幽一如の道理がわからないからのことで、此の顯界に於きましては、天子様はその儘神にましますのでありますから何人であれその信仰する神様に對する感激を其のまゝ、天皇に對し奉つて感じ能はざるものがあるならば、タトヒ如何なる立派な哲學的背景ある信仰でも、いかに奇麗な神徳に包まれた信仰でも、必然邪信であります。是れ「日本天皇は天に於ける神の玉の人間世界に於ける御表現」なることを識らざる邪學の致すところでありませぬ。」

客「マルクス系の邪靈に魂を抜かれて居る或る一部の人を除いては、天皇の尊嚴は充分徹底して居ると思ひますが、自分の禮拜する神に對する感激をそのまゝ、天子様に移し奉るといふことは感情的に少し無理ではないでせうか。恐れ多い申分でありませぬけれども、天子様を拜んだとて商賣が繁昌するわけでもなからう、病氣が直るとも限るまい、極樂や天國に行けるといふ筋のものでもあるまい、修養悟入唯一の道との説も成り立つまい、天皇尊崇の念と宗教的信仰とは別箇の問題だと考へて居る人は相當にあると思ひます。」

對「普通の宗教學上の見地からは一應尤もらしく聞える常識であります。それが昔から今日まで世界を擧げて邪信に陥らしめた魔説の根本であります。」

日本の皇室が比較的長い歴史ある名門であるとか、列聖みな仁徳を積み給ひしが故に、國民は禮讚的稱呼として「神なる」天皇を仰ぎ奉るといふやうな魔説が自書行はれて居りますけれども、日本天皇は天に於ける神の玉の具現にましまし、吾等の祖先が萬葉集等に於て崇め睦んで居りますが如く、そのまゝ「大君は神にしまし」ますのであります。これを知らざる所に總ての神姦妖怪が智慧の殿堂を築き、此處に世界の神話が發生し、此處にあらゆる邪教が正教の面を被つて登場し、其處にあらゆる魔神邪鬼が人間の知識線を超えた大思想大奇術を弄する餘地が存するのであります。日本天皇を天に於ける神の玉の人間世界に於ける御表現と如實に知るならば凡ゆる宗教的信仰も日本天皇を離れては正しく成立せざる事が自然に分つて來る道理であります。時節未到のため外國人は姑らく責任外に立つとして生を日本に享けたる者は賢愚の別なく「神なる天皇」を無視したる信仰に魂を委ねては、いかなる道徳的倫理的的生活者と雖も明かに邪道に墮せるもので、畏れても畏れざるべけんやであります。この一事を日本國民の鼓膜に徹底させるだけでも天行居の出現の意義は絶大でありまして、出現以來天行居が叫び續けて居るところであります。

す。

九、天關打開——地上大修禊

大日本天皇

對『私は「天子様は神にまします」と申上げましたが古來「神とは何ぞや」といふ事は相當に人類を悩ました問題であります。世が下ると共に神々の存在を否定する無神論が天下を風靡し、天照大御神は原始母系時代に於ける傑出した婦人であつたとか、天孫の降臨は南洋又は亞細亞大陸からの渡來であるとか、昔の神様は英雄的野蠻人であつたであらうとかいふ類の學者や考證家の研究が世俗の喝采を博して居りますけれども、さういふ言あげは世の中の罪穢れとなつて我れ人を毒するのみで、神界の實相と私どもの信念とは無關係のことです。

石城山で取り扱つて居る問題は、世に神は有るとか！無いとかいふ事柄を通り越して、神祇は人格的に客觀的に實在せられるといふ事實の上に立脚して、有史以來空前の神界の經綸に策應して居るのであります。神は如實に存在せられるのみならず、宇宙一切の根元は神祇に發するもので人類は神なくしては一日も存在することは出來ないのであります。』

客『神様の存在と神界の實在といふことは一應承認いたしますが、神界の經綸といふのはどういふものでですか。』

對『詳しいことは今日のところ判然といたして居りませぬ。また分つて居ること發表の出來ないこともあります。けれどもその片鱗ともいふべきものを申上ぐれば、神意によつて近き將來に於て幽顯兩界に互る一大改革が行はれるといふことであります。幽界に於ける幽政上の大改革は太古以來三回に及び、近くは明治五年に大改革が行はれ、その應は顯界にも色々の形に於て現はれましたが、來るべき改革は極めて大規模なもので、それは單に幽界だけに止まらず、顯幽兩界に互つて改革が行はれるのであります。その結果として大日本天皇の御稜威が地上全國隈なく光被するのであります。いかにも荒誕無稽な話のやうでありますけれども、皇典と先輩の報告とに基いて少しばかり私どもの所信を述べてみませう。』

顯界に於ける森羅萬象一切の發生、成長、消滅のスキツチは神界にありまして、その神界に於ける主宰神は、天照大御神様であらせられます。その天照大御神様がその昔、天孫瓊々杵尊様に地上統治の大權を付與し給ひしことは、國民の齊しく敬信するところであります。皇典を素直に



拜讀いたしまするに最初に造化三神の御出現の事があり、下つて伊弉諾、伊弉册兩神は國土の修理固成を完了せられ、次いで天照大御神は天上神界に鎮まりまして大宇宙をしらしめし給ひ、天孫を地上の王として降臨せしめ給うたのであります。皇典たる古事記日本書紀の所傳は幾分の相違もありませんけれども本筋の史實は大體に於て符合して居るばかりでなく、これ等のことは神界の實相と完全に一致して居ります。

天照大御神様は神の世界に於ける神の王にましまし、その御靈徳は太陽の如く地上一切萬物をの恩顧を蒙らざるなく、その御直系は瓊々杵尊様及び歷代皇孫尊に坐すのであります。天孫の御降臨に際して、天照大御神様は天津御璽たる三種の神器を親授せられ、同時に幽幽兩界を貫通して、三千世界へ光宣せられたる大命は申すも畏き地上經營寶祚無窮の大神勅であります。これは天祖が天孫に付囑し給ひし傳統の大神言で、日本書紀の撰者が

**豐葦原千五百秋之瑞穂之國。是吾子孫可王之地也。宜爾皇孫就而治焉。行矣。寶祚之隆。當與天壤無窮者矣。**

と漢文にうつし書けるところのもので、これぞ大光明を天壤無窮に放てる世界無二の神文でありまして、豐葦原瑞穂の國とは世界全國を意味するのであります。恐れ乍ら日本歴代の皇孫命の御

出現の御使命と、地上世界の歸屬といふものは茫々たる太古に於て、大日本皇室の宗祖にまします神の王によつて明白に決定せられて居るのであります。』

客『寶祚無窮の神勅は日本皇統の萬世一系の御實證もあることでもとより文字通りに信するものであります。國土付囑のことに就ては、文字の上から見ても「豐葦原の瑞穂國」となつて居りましてこれは古來、現在の日本内地であるといふのが定説のやうでありますし、又た世界の歴史を見ましても世界經營はおろか、地球半分の指導的立場に在つたこともないではありませんか。』

對『それは神典を活讀する眼識がないからであります。稀れには私共と説を同じうする學者もあります。日本は一見貧弱なる島國に過ぎませんが、實は神の宗國でありまして近き將來に於て、萬民仰ぎ見る事實によつて此の事が立證されて行くのであります。神典は漫然と讀んでは分りませんが、活眼を以て拜讀すれば「豐葦原の瑞穂國」は地上全土なることが分るやうに記してあります。而して此の地上全土の中心的國家が日本であります。斯う申しますと、それは日本人の自惚れで、後進の一小國たる日本が何んで世界の中心であるものか、といふ人もありません。私どもは日本を神國中の神國であるとか、世界の中心的國家であるとか主張致しまするが今の世の中にある目ぼしいものは精神的のみにせよ物質的のものにせよ、何もかも日本國土から

出たものであるといふ程の野暮漢ではありませぬ。これを分り易くいへば

「日本は世界の床の間」であります。

床の間は一家光榮の府であり權威福祥を維持する處ではありませんが、さればといつて一家は床の間だけで成り立つものではなく、臺所も書齋も玄關も便所もなくてはなりません。一家の物質的生活の本據は却て臺所にあるのでありまして、床の間に鍋も釜も味噌もあるといふ譯には参りませぬ。それで私共は最近ファツシヨの時流に乗つて騒いでゐる頑固な國粹主義者の、床の間に糞をたれるやうな議論には賛成いたしかねます。

世界一家の正しき態様といふものは、家長は一家の代表者として仁慈を以て家族を統率し、妻は家政を齊へ、下婢は命を奉じてその職に勵み、鍋釜は臺所に、穿き物は下駄箱に、衣類は箆笥に、塵芥は塵箱にとそれ／＼納まるべき所に納まり、犬は門を守り猫は鼠を捕るといふのでなければなりません。然るに世界の現状を見まするに、人間の生命、生活は臺所によつて維持されて居るといふので鍋釜を床の間に上げ、細君が奥の間に鎮座して主人公が玄關番を勤めて居るやうな生活様式であります。

伊弉諾、伊弉册の神は一切の因縁の神々の代表として國土の修理固成に當られ、天津日を知召

す 天照大御神様をお産みになり、天照大御神様は、天孫瓊々杵尊様を世界一家の首長として地上にお降しになつたのであります。

然るに人間世界の王にまします歴代皇孫尊は年久しく東海の神祕島に鎮まりまして、大陸方面には世界の王と自負し又は僭稱する輩が出頭没頭して世界の歴史を編んで來たのであります。が、此の地上の世界は、正當なる權威者に坐す 大日本天皇が君臨されなければ一切の歪曲は直らないので、それまでは此の世界は未完成なのであります。

客 『日本の天子様が全世界に君臨されるといふことは、日本が世界を征服するといふことを前提としてのみ考へ得られることで、昨今の世界の危機に刺戟された古い型の愛國者や元氣な軍人の夢とは一致いたしませうが、極めて現實性が薄弱ではありませんか。』

對 『現實性は極めて確實です。全人類の視線は、その好むと好まざるとに拘らず、來るべき戦争に向けられて居るやうであります。それは「世界の大機」から申せば重要な一段階に過ぎないのであります。』

客 『世界の大機とは如何なることを意味するのですか。』

對 『詳しい事は今中上げる自由を持つて居りませぬ。また分つても居りませぬ。けれども伊弉諾、

伊弉册二神の國土修理固成にも比すべき人間世界の修理固成が「神界の經綸」によつて近き將來に行はれ、天に於ける神の王の人間世界に於ける御表現に坐す。大日本天皇陛下の大御稜威が六合に光徹するに至る、といふ一大變革が謂ふ所の大機であります。これは、基督の再臨とか彌勒の出現とか、大地の立替立直しとか、神劍の降下或ひは天の岩戸開き——天關の打開——と色々な言葉によつて表現せられて居る極めて近接せる世界の將來事で、單に天行居のみの信念ではないのであります。深淺の差こそあれ世界各地に於ける神通的靈感的な能力者の豫言を中心として、隨處に於て宗教的團體が無連絡に、最近七八十年間にわたつて騒いで來たのであります。五十六億七千萬年の後に出現して一切衆生を救ふといふ思想とキリストの再臨説とは赤の他人ではなくその他の團體に於ける豫言も、天變地異と一大神人の出現とが題目となつて居るやうであります。が、何れも天啓の一端を傳へて居るので「聰明なる人々」が一笑に附するやうなお伽噺ではあります。それ等の團體は「大機」の進行過程に就ては自派に都合よく脚色を施して居りますけれども、要するに大日本天皇が此の地球上の世界に正しく君臨されることが基調となるのであります。これは軍事的または政治的の事業であるのみならず、重大なる宗教的、倫理的意義を含んで居るのであります。世の所謂新思想家はこれを舊式なる愛國者の夢想に過ぎないと嘲笑もい

たしませうが、これは太古から描かれた神界の經綸であります。

世界各地の靈的團體に於きましては所謂世界の大洗濯に當つて別に權威者が天上から地上から出現して世界の人類を統御するもののやうに申しますけれどもそれ等は悉く魔の眷族に弄ばれてゐるので、大日本天皇を他ににして、基督の再臨も彌勒の出現も有り得ないのであります。神様がひの救世主が天地間に忽然と出現するが如く言ふのは彼等の錯覺でありまして、救世主は既に東海の神仙島——千代田の大宮にましますのであります。地上の眞君主を人類以外に求めんとするのは人間の愚かなる希望でありまして、大日本天皇は如實に生ける神にましますのであります。

客「ではその世界の大機は何時、如何なる形式によつて運ばれるのですか。」

對「大機は何時來るかどころではありませぬ。約半世紀ばかり前から大機に入つて日本も世界も目下大機の中を進行中でありまして、大機の進行過程を豫斷することは極めて困難なことであります。友清先生はこれに關し昭和八年九月號の「古道」に次の如く發表して居られます。

### 天關打開の準備成る

天行神軍總司令 友清 歎 眞

十年前來世界空前の大機迫れることを警告し、天下大亂、天關打開と日本國の使命とに就て叫びつけ、天意の發動と天行居の出現理由とにつき萬難を排して幽顯兩界に號令し施設し來りたるが、世人は痴人の談夢となし、不戰條約國際聯盟等の精神と機能とを云々して所謂世界恒久平和の舞臺に入れりとし嘲笑を以て吾等を見たり。然るに一昨年滿洲事變勃發以來世人は始めて世界觀を一變し所謂非常時の標語は忽ち全國を蔽ひて今日に到れるなり。其他天下至變の中心たる天行居の號令に連れて如何に微妙なる動向を世界に與へたるかは十年前來の新聞綴込と天行居の機關紙綴込とを對照せば旦々として明らかなる事實なり。

然るに近時また非常時解消せりとか非常時未だ解消せずとかの言説行はるゝものの如し。彼等の眼力の微弱は當然のこととして咎めざれど天關打開の大時期を非常時と見る吾等より云へば、近ごろ漸くにして世界は非常時に入れるなり。滿洲國の成立を以て天行居の靈的使命完了なぞと妄語するもの一部に存在するやに仄聞すれど是れ以ての外のヒガコト也。今強ひて天關打開の大機を段階的に言へば

- 第一期 豫兆前期 〓 明治維新より歐洲大戰終熄迄
- 第二期 豫兆後期 〓 國際心理の政治的、産業的破綻

第三期 混亂前期(短期) 〓 空前の世界大亂

第四期 混亂後期(短期) 〓 大神異發動

第五期 修理前期 〓 大日本天皇の世界光臨、祭政一元政治

第六期 修理後期 〓 靈感的爲政家、靈感的技術家群出

にして今日の世界は第二期を行進しつゝあるなり。天關を打開して新天新地の世界に吾等は何者をも求むる乎。病苦貧苦なく眞と善と美と喜びと愛との地上生活、大日本天皇を中心として統制正大の地上生活、すなはち吾等の天關打開運動は地上生活を天上生活へ還元せむとする運動なり。此の運動は地の大神界の中府たる神集岳大永宮に於て數千年前に計畫されたものにして其の計畫の一部を洩れ聞ける各種大小正邪の靈團は約百年前來地上隨所に活動を始めたるが、其の天關打開の鍵を握れるもの實に我が天行居なりとす。此の事實は現界的にも確證ありて之れを言ふも今其の内容を明言することを許されず。明言せざるも遠からずして萬人目睹の前に堂々明現する必到の天數を有す。(以下略)

大機進行の過程に於ては、所謂「世界第二の大戦」が決定的の采配を振るのですが、單に征服

によつて大日本天皇の御稜威が地球全土を光被するものではありませぬ。戦勝の直接の結果としては、我が國が政治的にも經濟的にも幾分の便宜を得る條件が発生すると致しましたが、日本を敵として戦つた民族は一層我が國に對して敵愾心を持ちこそすれ、決して衷心より日本天皇陛下に歸順し奉るものではありません。茲に地上萬民を不可抗力的に心服せしむる一大神異が發現するのであります。地上は如實に鐵火の洗禮を受け、人類はその半を失はれるといふ凄慘な場面が否應なしに展開されるのであります。このことは古來傑出せる靈覺者によつて警告されて居るところでありまして、東西經典の記者はその筆の及ばざらんことを懼るゝものの如く

「聖書」日は暗く月は光りを失ひ星は地に落ち天の勢ひ動き震ふことあり……民は民を攻め國は國を攻め各所に地震饑饉疫病の恐れあるべし。

「マハバラタ」火の雨が降り地上の萬物を焼き、人は親子夫婦親族朋友悉皆離散し、東へ逃る者あり西へ走る者あり、混雜一方ならず、遂に火は地上に散亂し地上は火の中に人の叫び聲を聞くのみとなるべし。

と記して居ります。

來るべき地上の一大革正には世界無前の大戦を伴ふと共に、思想運動や社會運動が全人類に毒

ガスを放散し、種々の悪疫が流行し人間の多くは神經衰弱となり發狂の大流行時代も出現し、さらに大小となき天災地變が織り込まれるのであります。

來るべき地上の大革正に關しては昭和二年九月二十八日發行の「古道」紙上に次のやうな暗示に富んだ一文が掲載してあります。

時は移り、大地は廻る。

寢心地よき初秋の夜の、夢の如き寂寞の幕のうちにも神々の經綸は嚴かに展開されつゝ、わが地の世界の運命は、進むべき所へと何のわだかまりもなく大股に進みつゝあるのである。疑ふものには疑ふがまゝに、信する者には信するがまゝに、何の躊躇もなく、いかなる障害の有無にも頓着なく、この大地は神の巨腕に攔まれたまゝ、行くべきところまで、平々坦々と運ばれつゝあるのである。

天下至變の中心たる天行居に於ては、微力ながらも神々の經綸の縮圖を描いて、天行の時に順應し、第二の「洪水以前」に準備すべく、第二の「岩戸開」に用意すべく、もはや周圍の人の顔色を顧みるの暇もなく、すべてのものを抛ち、すべての能力を神にまかせて、裸體のま

まで怒濤の眞ッ只中に拔手を切つて進むが如く、あらゆる議論や懷疑や研究やを焼き盡し去つて、いと小さき信念の火を吹きおこしつゝ、盡天盡地の常闇の世界を駆け抜けるべく、脚は既にスタートを離れた。……やがては其處に、恐るべき世界を眺めねばならぬであらう。それは荒涼たる洪水以後の野であり山であり川であり街であり村であらう。黒ずみたる魂の骸は遙かの沖に千萬億兆、今は鬼火の燃ゆる力さへなく、全くの滅亡そのものとなりきつたる光景は、あまりにも凄惨なものではないか。……併しながら憂ふことを止めよ、何も彼も總て時だ。

看よ。妖雲は散じかけたではないか、みる／＼うちに拭ふが如き蒼穹、それは曾て人の世に未だ見たることなき麗はしき光りの透き渡れる空の色ではないか、その麗はしき光りの包む清澄な大氣の中には罪も冥ひも呪ひも芽ばえることができぬではないか。岩戸はまさに開かれたのだ。人の世終りて神の世紀の黎明の樂が、どこからともなく聞えてくるではないか。看よ。

遙かの空に廓然と浮き出て來たのは富士の神山ではないか。

千代田の城から行幸せる吾等が大君は、金鞍白馬に跨り玉ひて、生き残れる地上萬國の同胞を靡き玉ひ、新らしき世紀の創造へと導きたまふではないか。すべての人々の眸は愛に輝

き、あらゆる生物の唇は匂やかな微笑をたゞへ、天の星も、緑の野の花も、人々の顔までも、かつて想像だも及ばぬ美しさに瞬けるは神界廓正のために現はれた自然の賜物ではあらうが、何といふ清々しくも崇き世界であらうぞ……。

### 一〇、天關打開と天行神軍及び其の使命

來るべき地上の大革正の過程に於て現前される幾多の人爲的、不可抗力的事件なるものは悉く「神界の經綸」に出づるのでありまして、利であれ害であれ、必然的に來るべきものが來るだけの話で、恰かも地震や暴風雨の襲來の如く、希望せず歓迎せずともその然るべき時期には必然數理的に襲來を見るのであります。問題は其の襲來を望むべきか拒むべきかに非ずして、その必然の襲來に際して如何に處すべきかにあります。

戦争に於きましても、私どもは我が陸海軍の精銳を信賴しまた敬意を拂ふものであります。日本が一方の主力として世界の大半以上の國々を相手として戦ふ場合日本は決して樂觀すべき状況に置かれてはゐないのであります。天災地變に就ても、日本は神國中の神國なるの故を以てその圏外に立つといふが如き蟲のいゝことは望み難いのであつて、神の王の御表現に坐す 大日本

天皇を奉ずる日本臣民の一大覺醒と天神地祇の訶護とに依り、人類世界は辛うじて絶滅を免れることが出来るのであります。いかに神界の經綸なればとて何年何ヶ月経てば捨て、置いて一切が成就し、大日本天皇が世界に光臨され、政治も經濟も、生活様式も、宗教的信仰も根本的に是正されるといふのであるならば、人間の努力とか日本人の持前の使命とかいふものは何等の意義もないものになつて了ひます。

某方面には、一瞬にして世界一切のものが神意によつて立直されるやうなことを口走つて居る團體もありますけれども、そんなお伽噺的な他愛もないものではなく、來るべき世界はモット普通常識的に考慮されるべき世界であります。原則として神は決して人間の領分に立入つて立働かれらるものでなく、大機の進行につれて幾多の神祕現象は起つて参りますけれども、人間の世界は矢張り人間の世界でありまして、世界の立直しは人類の尊敬すべき努力の集積によつて完成されるのであります。

何といつても現界地上の主たるものは人間でありまして、その人間には神様から思慮も手も足も賦與されて居るので人間が神界の經綸に策應し、神人兩界の氣流のムスビによつて總てのものが具現するのであります。爰に神と人との至重至大の關係があり、こゝに人類の自覺覺醒といふ

ことが要求されて居るのであります。今こそ神に出でたる人類が神に歸り神祇の啓導のまに／＼全身全靈を以て地上世界の完成に捨身の努力をせねばならぬ一大時節が到來して参つたので、今日といふ今日は明治維新前後とか日露戦争前のそれに比較すれば比較にならぬ程今日が切實深刻で且つ世界的に擴大されて居ることは狂人に非ざる限り確認せられる筈であります。

神道天行居は此の有史以來未曾有の大時節に出現を命ぜられ、その出現の使命の執行機關として昭和三年七月十八日、神示によつて**天行神軍の組織**を命ぜられたのであります。然らば天行神軍はどういふことをするのかと申しますと、「天行神軍軍規」第三條に

天行神軍ハ敬神尊皇ノ大義ニ立チ神道天行居ノ統制ノモトニ神祇信仰ノ威力ヲ以テ家國民人ノ守護ニ任ジ天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼スルコトヲ使命ノ中心トス

と規定してあります。文句は誰れでも使用し誰れでも唱へ來つたところでありませうけれども、それが本當に徹底的の信念でなければなりません。「神祇信仰ノ威力ヲ以テ家國民人ノ守護ニ任」するといふことも、天行居としては特別の確信と方法とを有して居るのであります。來るべき戦争に對する準備は當路の權威者によつて海に陸に空にそれ／＼萬遺憾なく講ぜられて居りませうけれども、戦争に於きましては皇國武神の御稜威の發現が絶対不可缺の要件でありまして、神威の發

動については「太古神法」による靈的施設を必要とするのであります。また大神異の發現といふ事についても、必到の災禍を可及的に小ならしめ、且つそれを皇國に有利に展開せしめるにはそれ相當の施設努力を要するのであります。天行神軍の使命はこれを一言にして云へば**靈的國防網の完成**といふことであります。白馬山上に於ける諸施設も臺灣日月潭、北海道洞爺湖に於ける神事も、富士、琵琶湖、武甲山に於けるそれも、悉く靈的國防上の施設であります。さらに重大なるは**白頭山天池**に於て執行いたしました大神事であります。

昭和八年七月三十日、天行神軍は幾多の困難と闘ひ、軍を白頭山に進めて天池の湖心に、皇神達の鎮まりたまへる大神聖を鎮下し奉つたのであります。これによつて天關打開に對する根本的の準備は遂に完成したのであります。

靈的國防の完成を標榜せる天行神軍の今後の活動は如何なる形式をとるか追々時節の進展につれて明らかになつて参ります。近き將來に於て日本が強敵を相手に戦端を開く場合は、我が天行神軍は先づ我が國の陸海軍の武運を天神地祇に禱る大修法を執行致します。それも大風に灰を撒くやうな、とりとめもない氣休め目的の祈禱修法ではなく組織的、具體的な特別の方法によります。修法の執行は、國運を賭しての戦争の場合のみに限らず、特殊の必要に應じ随時に執行

されるものであります。石城山上に於ける天行神軍の特別修法は昭和六年秋以來既に六回に及んで居ります。その目的はその都度告示に明記されて居る通りであります。その應は現界にハツキリと表はれて來て居ります。』

客『天行神軍の組織とその構成分子とはどうなつて居るのですか。』

對『構成分子は勿論天行居同志に限つて居りますが、主として石城山道場の修齋會に参加された方を士官に任命することになつて居ります。階級は大將から准士官まで十級に分れて居りますけれども、これは軍として行動する場合の階級でありまして、社交上に於てはこれを認めて居りません。任命はその人の信念、社會的地位などを考慮して定めて居るのであります。將來神示によつて階級を定めるやうになるか否かその邊の所は分りません。帝國陸海軍士官の任命にせよ神示によるのではありませんけれども權威があるが如く、天行神軍の士官任命も人間の考慮に出づるものであつてしかも權威あるものであります。天行神軍士官たることは太占章を以て表徴し、階級はその紐によつて表示することになつて居ります。』

形の徽

客『天行居の同志諸君の純一なる忠魂義膽と靈的國防上の周到なる用意とに對しては滿腔の敬意を表する者であります。萬一：萬一ですね、世界の大機なるものが來なかつたなら、天行居同志の



立場がどうなるかといふことを一度位考へられたことがありますか。』

對『萬に一つでも來るべきものが來らずに済むならば、それが爲めに私どもは天上天下の嘲罵の的となつても大満足であります。けれども來るべきものが來ることだけは天にも地にも免れることの出來ない天の數であります。而もその來ることが一日遅ければ遅い程地上人類の犠牲は大きくなります。天行居が「天關打開」促進の祈願修法を執行するのはそのためであります。』

## 一一、人類歸幽後の世界――

### 天行居同志と石城島神社

客『天行居の主張、信仰、世界の大概といふものに就ては略々了解が参りましたが、それでは天行居の同志は天下國家を念とする志士ばかりで、それも結構でありますけれども私どものやうに毎日俗事俗用に忙殺されて居るものには出來ない藝當です。私は天行居の存在と活動とに對しては深甚なる敬意を表しますけれども目下のところ私どもとは縁遠い存在のやうです。』

對『そんなことはありません。天行居は書生張りの天下論を上下する自稱志士の集會所ではなく、極めて平凡なる人々が神縁によつて連繫されて居る所で、同志は總て公私の正業に就いて居る人

ばかりです。正しき業務に従事することはそのまゝ「神の道」を行きつゝあるもので、農耕、漁撈、製造、軍事、政務一として神の道ならざるはありません。従つて天行居の同志は、正信に住して各自の因縁の業務に出精して居るのであります。平常天下國家を論じて徒食して居るものは一人も居りません。また風を喚び雲に乗ることを神道の本旨と思つて居るものもありません。

福を轉じて福となし、名位壽富に處らんとする慾念は多分に持合せて居りますけれども、これは人間の正意でありまして斷じて排斥すべきものではないのです。たゞ、生死を超越して平時戦時を問はずその立場々々に於て君國に貢獻するといふことが同志の處世の態度であります。』

客『もつともなことです。私は戦争に於てなら君國のために命を捨てることは人並に出來さうですが平時に於ては到底死の恐怖から解放されることが出來ません。どんな名僧智識の法話や哲理を聞いても駄目です。』

對『釋迦入滅後二千五百年にして「お浄土」の有無や方角を論争して居るやうなことでは説く者も聞く者も生死を超越できる譯がないではありませんか。來世は觀念的存在であるか事實上の存在であるかといふ問題は神の有無、靈魂の滅不滅論と同一性質のものですがそれが有つたり無かつたりしては信仰の中心はフラ／＼であります。客觀的に實在する神界の經綸に應じて日夜努力

しつゝある私どもはさういふ論争に對して挨拶のいたしやうもありません。

今や地上の有ゆる宗教は權威を失ひ、人類は擧つて眞の安心を得ず、自力にせよ他力にせよ安心立命を得たりと號するものも殆んど悉くが無理な假定を基礎として安心立命に似たものを擱んで居るに過ぎないのであります。鹿爪らしい顔をして居ても、人類の出発點と靈魂の歸着する所とに確實な安心を得て居る人は曉天の星の如くに稀れであります。しかも此の人間の大事を知らずして比較的のんきさうに生活して居るのは、古來多くの宗教や哲學になぶられて惡擦れがして居るからであります。今日か明日か一年さきか十年さきか、三十年後か五十年後か兎に角生きとし生けるもの悉くが例外なく見舞はれる死といふものに就て先づ嚴肅に考へてみる必要はありませんか。

貴下には歸幽せる親はありませんか、歸幽せる兄弟姉妹はありませんか、歸幽せる子はありませんか、友人知人恩人はありませんか、それらの總ての愛する者、親しき者は今、いかなる所にいかなる生活を爲しつゝあるのですか、それとも茶毘一片の煙となつて天空の彼方に消えてしまつたのですか。』

客『それこそ私が大いに問はんと欲するところです。』

對『古來賢哲も喝破して居ますが如く本來無生死であり、生きとほしでありますが、昨日まで小言をいつて居た奴が今日は冷たくなつて醫者が死亡診斷書を書いて戸藉から鬼籍に入るのですから非常な變化であります。この變化を死と呼んで居りますが、火葬場の煙と灰になつて、なんでも無生死であり生き通しであるかあります。』

客『あらゆる世界の宗教は生死無明の闇を照らして人類に安心立命を得させることを本願とするものでありますけれども、私共下根の者は現に經驗しつゝある生に就てさへ、達人善智識の説示だけでは安心することが出来ないのです。眞理は如何やうにもあれ、どう考へ直しても苦しいことは苦しく貧しいのは貧しいのです。貴賤貧富苦樂憂愁好悪は人間の妄想であらうとも私共にとつては嘘偽りのない現實であつて、哲人の人生觀、生命觀は正しからうとも私共は現實に感じつゝある妄想の中に生活して居るのであります。同様に私共は世の善智識の生死觀がたとへ正しく共その高遠なる哲學的來世觀によつては安心し得ないのであります。死が一切の終局でないならば、人間の死後尙ほ靈界の生活があるならば、その客觀的實相について承りたいのです。』

對『本來無生死、不増不減不生不滅は幽幽を貫く眞理でありまして靈界生活の終焉と同時に幽界に於てその人は生活のスタートを切るものであります。生死とは單にその人の生活の場所が變つた

といふに過ぎないものであります。たゞ幽顯の間に儼然たる一線が引かれて居るために彼我の交通が原則として遮断せられ、死後の消息は普通知ることが出来ないために幽界人としては色々な不安があるのですが、死の直後及び其の後の實相を大體的に申しあげてみませう。

× × ×  
 人が死すれば早津船といふ迎へ船の來ることもあり御前島といふのが導きに来ることもあり先祖のものなどが迎へに来ることもありすがいづれも産土神の御計らひによるもので、産土神が親しく迎へに來られることもありすが、それから産土神又はその使神に導かれて出雲の閻宮に参りましてそこから神集岳に送られ、神集岳の裁断によりまして夫れ／＼の處に鎮まるのであります。産土神の死後の靈は以上の経過を知らないのが大多数で、それはわれ／＼が母の體から離れてから何十日か經つて産土神社参拜に抱いて行かれたのを知らないのと同じやうなものであります。新世界に於て自我に眼覺める頃には、平凡な靈は多くの場合生前の事情と同じやうな状態なので、中には當分死んだことを知らない先生もありまして、靈界の知識が豊富になるに連れて正則として向上して行くものですが、稀には墮落するものもあります。以上は日本人の歸幽についてでありますが目下のところ外國人の死後の靈の迎る道筋はその民族の歴史信仰習俗によつ

て異なります。』

客『生死といふ人類共通の大事事件に伴ふ事情が民族によつて違ふのは少し變ではありませんか、ヤハリ靈界の存在といふのはそれ／＼の信仰、民族相當な幻覺ではないでせうか。』

對『幽界も現界同様一本に統制せられるのであります。只今のところではさうなつて居りませぬ。その幽界も高下大小幾百千に分れ、歸幽後の歸着點も生存中の言行とか出生前からの因縁によつて異なります。幽界生活者からの報告は幽政上の按で正しく報告することは出来ないのですが、たとひできて千差萬別であるのが當りまへなのであります。靈界の實在といふことは高級な神界に於ても紙や鹽は現界のものを使用して居られたり、お許しを得て神界のものを現界へ齎らす場合もあることから見ても五官の認識には上らなくとも確實に存在することが分ります。』

客『私は四歳になる子供を亡くしましたが今でも眼前に彷彿として消えてなくなつたと思ひたくありません。靈界が確實に存在すると聞いて安心しましたが、私の子供は佛敎式で送つたのですから、賽の河原で石を積んでは鬼に壞されてゐるといふ状態で比較的のんきな地獄の境界に魔誤つてゐるのでせうか。』

對「さうではありますまい。無邪氣な子供は生前に於ては未だ地獄行きの資格をつくる時間もなく……さればと言つて、高級の神界に上るだけの精神上の準備もなかつたので、謂はゞ現界同様の普通の靈界に於て育まれて居ます。そこには現界の父母兄弟や友達やに相當する様な靈が存在して養育してゐますので格別寂寞も感ぜず悲しい思ひもして居らぬのが普通のやうですから少しも心配はありません。現界に在る有縁の人達が何日までも思ひつめて悲嘆しますと其の悲嘆の想念だけが子供の胸に響いて却て寂寞を感じさせます。眞に他界にある子供の幸福を念願するならば各自の信仰する方法によつて相當の供養をしてやるべきであります。供養とは物質的の供養ではないので、幽界では菓子とか玩具とかは満足し得るやうになつて居りますから精神的の供養をいふのです。精神的供養とは祭典法要を營むとか、子供の冥福のために父母が特に善行を積むとかいふことです。祝詞なども靈界に入ればよく理解されるのが普通のやうでありまして、それが靈界生活者にとつては非常な慰安になるのです。それ許りではなく、靈界生活の向上心の芽を出させる事になつて追々高級の神界にも上り得るやうにもなりますので、向上も墮落も現界と大した相違はないのです。とにかく死者は歸幽したのであつて消えて了つたものではありません。神律のムスピカタメによつて鎮まるべき所に鎮まつて居るので本來無生死、生き通しであります。灰と煙に

なつたものがどうして肉體の所有者らしく生活するかといふ疑問が當然起つて來ますが、それは歸幽後一種の玄胎を結成するからで、その玄胎の能力にも等差があることなどは貴下の今後の研究題目として残して置ませう。

兎に角現界に居る人が正しき信仰に徹すれば、それらの總ての愛するもの、親しきものは幽界に於て慰安を得るのみならず、具體的に幸福の世界へ導かれて行きます。一人出家すれば九族天に生ずといふことはそのまゝ事實でありまして、幽界に在る生活者はその有縁の現界生活者が正しき信念を確立せんことをいかに千祈萬禱して居るでありませうか。昔は浮ばれない靈どもが出現して神祭をして呉れとか經を讀んで呉れとか申しましたが、さういふ時代に於ては已むを得ない事でありましたが……今や人類長夜の夢醒めんとする空前の時節に當り永遠の炬火は神集岳の現界的表現地たる石城山に點ぜられました。やがて此の炬火は太陽の如く赫耀として右往左往せる萬靈萬魂の正しき歸着路を照らすのであります。此處に一人の求道の士ありて石城山に結縁し、大君の醜の御楯たる自我に大悟徹底せられたとしたならば何うでありませう。古の神の道のまに／＼祖先の靈や近親の靈を祭祀せられたならば何うでありませう。

幽界にあつてその人の大道への復歸を千祈萬禱しつゝあつた愛する者、親しきもの等が歡喜落

涙するさまも彷彿と想ひ浮べられるのであります。「さればとて石に蒲團は着せられず」と申してありまするが、兩親生前の不孝は不孝として、一たび縁を石城の神山に結ぶことによつて、祖先に大孝を申べ、又た愛するものには大慈悲を垂れることができる譯で、尊くもまた有り難き極みではありませんか。』

### 石城島神社の造營

對『そこで問題になつて来るのは歸幽者の靈の祭祀方法でありまするが、天行居では同志の祖先や近親等の靈を石城島神社に合祀して天行居本部で祭祀の事を取り扱つて居ります。石城島神社は石城山上、日本神社東北の稍々低地に昭和六年九月に造營せられたものでありまするが、これは單なる祖靈社とは異なるのでありまする、日本人の何人もが一度は導かれて行く地の神界大都神集岳の表現地に、天行神軍士官の靈を祀り、歸幽後も幽顯兩界革正の神業に貢獻せしめんとする意圖に出でたもので、地の神界大都たる神集岳の現界に於ける齋庭たる此の靈地に、大日本昭和六年を以て石城島神社造營のことを神界より許されたといふことは、我が國土に於ける幽政上の相當に大きな事件であると信じて居ります。最初は國家に於ける靖國神社の如く天行神軍士官のみ

を祀るつもりでありましたのを、同志の家族縁族の誰れでも希望によつて鎮齋することに變更されたのであります。天行居は同志の家庭に於ける舊來の宗教には干渉せず、家庭の平和を動搖せしめる危険のあることは絶対に避ける方針で來ましたが今後とてもその通りでありますから、御希望によつて石城島神社に合祀しましても、各自の御家庭に於ける祭祀方法は佛式なりバテレン式なりで適當に祀らるればよいので、石城島神社はそれらの事情に關係なく古神道式に鎮齋するのでそれも御希望者のみに限つて居りまして、天行居は他人の精神生活に對して強制的な壓迫を加へるやうなことは絶対に致しませぬ。

鎮齋方法は古法によるもので發表するわけには参りませぬが、その結果としてこの神社に合祀された方が幽界に於て如何なる影響を受けられるかといふと、その方の意思と關係神祇の御計らひにより、從來鎮居せられてゐるところから時々石城神境へ通行せられるのもありませうし、本居を石城山に移して從來の關係方面へ行きかひ給ふ方もありませうけれども、神道式の祭祀を永遠に享けられることはどなたも同様であります。それによつて所謂轉迷開悟し離苦得樂せられる方も随分ありませうが、兎に角このことたるや、先祖に對しては孝の大なるものであり、弟妹子孫に對しては正しき愛の表現でありまして、此の石城島神社の造營によつて私どもの祖先の爲め

に空前の大神業たる世界大機のために意義ある活動の道が開かれたといふことは、私どもの爲めには眞に幽幽不二の眞覺玄悟に立ちて奮闘する上に大きな安心の土臺が出来たといふことが出来ませう。』

客『いや、よく分りました。私も歸幽後はぜひ其處に鎮祀願ひたいと思ひますが、差し當り、永年お寺委せにして居る先祖の靈と歸幽した子供だけは早速御願ひしたいと思ひます。鎮祀申込みの手續は何うすればよいのですか。』

對『鎮祀のことは齋務部に聞いて下さい。しかしさう慌てられるにも及ばないでせう。徳川氏の所謂切支丹邪宗門禁止政策から、祖先の位牌を代々寺に預けて来たために先祖を人質に取られて居るやうに錯覺して寺院の寄附に溢々財布の紐を解く人も多い昨今ですから將來何等かの事情のため、たとひ一時的にもせよあなたが天行居と絶縁せられるやうになつた時後悔？されることがないとも限りません。勿論天行居としては同志の去就に關係なく一たん鎮祀せる御靈は分け隔てなく祭祀致しますけれども、まあ、修齋會にでも一度参加されて親しく石城山の土を踏み石城島神社に参拜してからにせられた方がいゝでせう。』

## 一一一、修齋會と神法の相傳

客『修齋會とは何んな會ですか。』

對『石城山麓天行居本部道場に於て毎月一回、一定期間(たゞ今のところでは七日間です)同志中の希望者が、天行居修道部の指導の下に所定の修業をする會であります。』

天行居の本部道場は靈的見地よりする古神道——太古以來固有の神ながらの道に就て清く正しき信念を養ひ、日本人が本来具有する忠魂義膽を徹底的に覺成せしめるために實際的な修養方法を講じて居るのです。忠魂義膽を以て君國に報ずるといふ精神は太古開闢以來日本人の本具の精神であつて、決して二千年や三千年の間に習慣づけられたものではありません。かの大作家持の歌にある

「海行かばみづくかばね、山行かば草むすかばね、大皇の、へにこそ死なめかへりみはせじ」の言立ては單なる一武神の一家言ではなく、日本臣民の總意を代表して發せられた日本忠道の嚴肅なるステートメントであります。敬神尊皇とか盡忠報國とかいふことは有らゆる倫理道德の書物にも力説せられ、何人も口にする言葉で、三尺の童子もこれを知つて居るのであります。治

亂動靜行住坐臥、忠魂義膽に徹することは普通の文字や教説を以て養ひ得るものではありません。大君の御ために死するといふのは忠魂義膽の最高の表現であります。人間生活の全部が忠魂義膽であつてこそ一大事の場合にも日本忠道の精華を發揮し得るのであります。神に對しては徹頭徹尾忠魂義膽を以て對しなければ感應はないので、忠魂義膽に非ずして感應する神あらばそれは必然邪神であります。さればとて忠魂義膽とは齒齧みをして肩をいからして居れといふことではありません。少婢が主家の赤ん坊を大切にすることも忠魂義膽の現はれであり、鋏を手にして耕すものも、會社に於てペンを走らすものも、劍を抜いて練兵場に立つものも、バケツを提げて臺所に立つものも、忠魂義膽のあらはれに非ずして其の任に當るはこれ罪を神明に負ふものであります。而して此の忠魂義膽は人間が生れながらにして具有するものでありますから、その眠つて居るのを覺成させる所が「天行居石城山道場」であります。道場に於ける修齋會は、太古以來因縁の靈地たる石城山に結縁せしめ、神祇に直面せしめて本來の忠魂義膽を覺成せしめることを主眼として居るのであります。期間中の行事の或る種のもは道場以外で出来ないことではありませんが、神界中府の表現地たる石城山の靈境——天神地祇の來往集合せられる大前に於て行ふと言ふことに格別の重大なる意義が、かゝつて居るのであります。』

客『修齋會に於ける行事はどんなことですか、私は性來虚弱ですから寒中に水に入つたり、斷食したり其の他非常な忍耐を要する所謂難行苦業のことは出来さうにありませんが……』  
對『御心配御無用です。天行居の修齋會に於ては行者的勤行は一切いたしません。老人でも御婦人でも、虚弱な方でも何等苦痛なく極めて樂々と修業が出来ます。修齋中の行事を簡単に申上げれば

### 宣誓式。

これは修齋會の始めに執行し、参加者は一定の誓約書を大前に捧げます。

### 日課。

先づ淨身鎮魂法を修して毎朝嚴肅なる祭典が執行せられ修齋者はこれに参列し、それから鎮魂法、音靈法、神咒奉唱を指導いたします。午後は一同石城山に登拜して日本神社石城神社、五十猛神社、石城島神社その他山上諸社に参拜し、或ひは神籠行を巡つたり遙拜所に立つて手箱山（土佐國の神山）を拜したりして、太古以來の靈地に親しく結縁することになつて居ります。

夕食後は講演を聴いたり祭式の講習を受けたり、自用を足したりして居りまして修業といふ程のことではありません。七日間のうちで修業らしいと思はれるのは傳法前二日間の「無言の行」であります。

## 傳法

天行居が不思議とも不思議なる因縁によつて天下重祕の神法を拜戴して居ることは既に話し致しましたが、大は天下國家に關するものより小は個人の除災招福に及び、その神驗奇應はひそかに斯道者の懼るところであります。天下國家を念とする忠魂義膽の士と雖も災禍を除き福祥を得んことを望むことは正しい慾望でありますから修齋會參加の同志で御希望の方に對しては

## 太古神法

中のあるもの其他二三の最も正しき神法を傳授して居ります。

神法道術の傳授などと申しまするといかにも時代めいてきこえますけれども、その真正なるものの威力の如何に恐るべきものなるかは知る人ぞ知るのであります。またそれによつて除災招福感應道交の實を擧げるといふことは主我的のことのやうであつて實はさうではないのであります。神法道術によつてその人の忠魂義膽が一層効果的に發揮せられるばかりでなく、或る特殊の秘唱の如きは一人一家のみならず、一村一部落の災禍を避けしむるところの重祕のものであります。若しそれ太古神法の重大祕事に至つてはこゝに言擧げすべからざるものに屬し、またさういふ祕事は同志一般に傳へる性質のものでもありません。

修齋會に参加せられた同志に對しては最初初段傳法を授け、初段が全部済みますと其の人のその後の信念によつては中段傳法を授けます。これも全部道場で傳法するといふ譯ではなく、御歸宅後の信念を考査して傳法を追加したり、又はそれきりで打切ることもあります。天行居で允許を得て傳授する神法はいづれも神傳の正法でありまして、怪しげな神憑りによつて感得した世間の山師がひさぐ△△法××術と異なり、新聞廣告―傳法料送金―所謂傳書發送―の三段手續きによつて簡單に片づける譯に行きません。傳法は原則として修齋期間中、道場に於てすることになつて居りますが、重祕の傳法でありますから傳法前二日間は無言・潔齋を要します。

「無言」とは讀んで字の如く、二日間は何なる理由と事情があらうとも一切發語、大笑を禁じます。此の無言の行に就ては或る祕義の存するところでもあります。「潔齋」とは物忌みであります。これにも正神界啓示の一定の方式がありまして、その次第は「奥傳錄」に述べてあります。此の無言の修業はその間不斷の注意を要するだけで、別に體力を必要とするものではありません。石城山の登拜も路は極めて緩やかな勾配でありますから下駄ばきで差支へありませんが、これも修齋者の健康の如何によつては休まれることも敢て咎めは致



「しませぬ。」

客「そんな短期間、そんな生やさしい修道によつてどれだけの信念と幾許の道力が得られるものでせうか。」

對「天行居は修齋者の舊來の宗旨には何等干渉せず、また天行居の主張を押しつけもせず、所定の指導をして居るだけでありませぬけれども、——又た事實上、七日間に色々なことをお話しする時間もありませぬが——神々の啓導によつて、その人の信念次第で種々の靈通や神祕現象或ひは種種の神徳を授かつて居られる方もあります。さういふことはその人々の信仰上の副産物で……修齋會に参加せられた人の敬神尊皇の念慮が愈々本格的なものになるといふことは十人が十人、百人が百人例外が無いやうです。私どもではさういふことは分り切つたこととして特別に吹聴もいたしません、これらが因縁の靈地と神祇の訶護の然らしむるところであらうと思つて居ります。修齋期間は僅かに七日間でありませぬから、道場では修道の形式を指導する程度に過ぎませぬが、御歸宅後修道を積まれると、神祇の啓導によつて追々幽秘の扉も開かれるやうになります。鎮魂法にせよ、音靈法にせよ、神咒にせよ、一法に通徹せられるれば萬法に通じ得られるのであります。まして、神法と雖も手品ではありませぬから數を重ねられなければなりません。それで本田先師

は「道は専修に在り」と言はれ、宮地先生は「神通は信と不信とに在り」と喝破して居られます。これ眞に千古の名言であります。」

客「私も修齋會に参加したいと思ひますが、参加手續その他修齋者の心得等について知つて置かねばならぬことはありませんか。」

對「修齋参加者は天行居同志に限つて居りまして、前以て修道部の参加承諾を得て開會前日迄に道場に到着せられねばなりません。準備は次の通りであります。

携帶品 白衣、白襦袢、白足袋、袴、毛布(なるべく)、手拭、雑記帳、紙、鉛筆等。

修齋費 神饌料、舍費、食費を含み一期間金拾圓。(但し傳法初穂料は希望者のみ別に納む)

白衣は修法中だけでその他の場合は着替へられてよろしく、總じて天行居道場に入らされる同志は山伏か行者めきたる風采は禁物でありますから、その御身分御職業に従つて萬事「らしく」せられたいのであります。道場の秩序を紊したり、傳染性疾患のある方は御遠慮願ひたく、同志相互間の俗靈術めきたるもの交換教授は一切禁じます。多少の不平等が有りましたも、そこが修業でありますから他人の信念を動搖せしめるやうな言動は慎んでいただきます。そして意のあるところは修齋が済んでから口頭または「修齋日記」のやうなもので指導者まで通じて貰ひたい

と思ひます。』

### 一三、神道天行居の組織

客「天行居については大體伺ひましたが、將來は勿論のこと、今日でもその經營には相當の物質的條件が伴ふでせうが、他の教會神道などと大分毛色が異なつて、有難屋信者も居ない天行居の財政は何うして維持されて居るのですか、またその組織はどうなつて居るのですか。』

對「天行居の出現は人間の思慮に出でたものでありませんから、その活動や經營に私意を加へることとは許されません。その存在は「天下の公器」としての存在でありますから、その組織は「神道天行居憲範」に明確に規定してあります。「山の平時代」の天行居は友清先生の經營に屬して居りましたが、天行居の公的性質が明白となつてからは天行居經營の一切は現在の石城山本部が繼承したのであります。石城山の經營についても、道場の建設や山上所要の土地の買収に當つては友清先生や故荒井先生が私財を投ぜられて基礎が出来その上に同志の少なからざる犠牲が累積されて今日に至つたのであります。現在は兩先生の私物ではなくて、天行居の所有財産となつて居ります。

神道天行居の創立者たる友清先生は、天行居の公的存在を明確にするために憲範を制定せられその根本原理は不磨の鐵則として同志一同が尊重するところでありました。その中に天行居は天行居の天行居なり。天行居の存在は永久無限なり。天行居本部は他の地方に移すことを得ず。といふことが規定してありますが、これは天行居出現の使命から考へても當然のことであります。又た天行居の代表者たる宗主に關して異色ある規定があります。憲範によりますと、天行居宗主はその地位を自己の家族親族をして繼承せしめることは出来ません。宗主が其の地位を退かんとする時は、其の家族親族に非ざる者を後繼宗主として指定し、同志の代表から成る聯合協議會の協賛を求めることになつて居ります。従つて天行居は天行居の天行居であつて、宗主の天行居ではありません。宗主と雖も一同志であります。普通教會に於ける信徒と教祖又はその子孫との關係ではないので、天行居に於ては教祖とか稱する神様がひのものを絶対に認めません。宗主は神祇の幽贊と同志一統の信賴とによつて統を承けて居る天行居の代表者であるといふに止まり、神祇の前には宗主、幹部、一般同志は同一の機會に立つて居るのが神道天行居の組織原理であります。

世間によくある教團の首長が簾の中に入つて神様の眞似をする、あの神格化思想は天行居が最

も排撃するところであり、天行居の宗主は人間らしき人間であればそれで澤山でありまして、卓抜異常な能力の所有者たることは、必ずしもその必須の条件ではないのであります。このことに就ては第一期宗主たりし友清歡眞先生の「宗主辭任と後繼宗主」と題するステートメント（昭和五年十一月發行「古道」第二〇〇號に發表）に

……靈能とか靈覺とかいふやうなものは宗主になる人は有つてもよいが無くてもよいので、絶對確實な正しい靈覺でなくば寧ろ無きに如かずとさへ考へて居ります。憲範第九條「宗主ハ神道天行居ヲ代表シ之ヲ統理ス」とありまして、要するに天行居の現界に於ける經營上の代表者でありさへすればそれで宜しいのであります。云々……

とありますやうに、奇蹟の行者などは寧ろ天行居宗主の缺格條件となつて居るのであります。併し天行居の宗主は天行居の一切を統理する天行居の代表者でありますから、同志中の最高峰でありまして、神々が宗主を重視せられ一般同志が格別の敬意を拂つて居ることは勿論であります。憲範に於ける今一つの重要規定は同志の代表が天行居の經營に關し批判、協賛、議決をなす聯合協議會に關するものであります、その特色とするところは、天安河原に於ける神議に神習ひ、客觀的に實在し給ふ天神地祇の大前に於て同志の代表が事を議るといふ點にあります。

議員は雄辯や策略を弄するの要なく、自己の所信を神前に奏上する氣持で私心なく述べればよいので、自説に勝る説には行きがかりに提はれず賛意を表して議事の進行をはかり、常に神祇に對し奉つて懼るゝところなき言動を第一といたします。發言するも可、發言せざるも亦た可であります。毎期の聯合協議會は會計検査委員を選任して天行居の財産帳及び會計帳簿の査閲をなさしめます。これは公器たる天行居の組織上當然の事でありまして、天行居の財産は公用以外に處分する事は許されません。ですから宗主と雖もその私經濟とは嚴格に區別することになつて居ります。本部在任の職員が宗主の命を受けて或る地點まで出張したとして、そこから私の意思を以て或る神社に参拜したとしたならばその参拜費用はその職員の負擔に屬します。天行居は天下同志の淨財によつて維持されて居るのですから、その出納は最も明確を要すること、微々たる今日も隆々たる千年後と雖も異なるところはありませぬ。

客「天行居の同志は主として何ういふ人達ですか。」

對「それは種々雑多で、神道家あり、政治家あり、實業家あり、軍人あり、學者あり、農業者あり、漁業家あり、女あり、學生ありで千差萬別であります。その分布は日本内地は勿論、臺灣、朝鮮、滿洲國、中華民國その他に亙つて居ります。同志中には何等かの事情によつて天行居同志たる事

を世間に秘して居られる方もありますが、孰れにしても同志中に大権力者や大富豪はないやうであります。普通に観るならば平々凡々たる人物の集りであります。然るに此の凡人の集團たる天行居が正神界の現界に於ける意思執行機關として、貧しさ乏しさの裡にも忠魂義膽を結束してやるべきことをやらねばならぬやうになつて居るので、神様の攝理は一見甚だ皮肉であります。全國に散在する同志をその地方々々に於て統轄して居るのは各地に於ける支部でありまして、支部は本部の指令その他を同志に傳達し、又た同志の動靜並びに地方的情況を本部に報告し、毎月例會や小會を開催して同志の信念の向上に力めて居ります。

此の外に古道研究所が各地に設置してありまして「古道」やその他の天行居の出版物を研究しその強く正しき信念を周圍に及ぼして居ります。

#### 格神講と天行神軍

神道天行居内には格神講と天行神軍とがありますが、これは對抗的なものではなく、格神講員を同志と呼び、同志全員を以て天行神軍と見做し原則として修齋會を卒へられた同志を士官に任命して居りますが、雙方とも宗主の統理下にあります。つまり天行神軍は天行居の動的形態であります。

#### 天行居の出版物

尙ほ詳しいことに就ては天行居の出版物を一通り精讀して頂きたいと思ひます。古いものは全部絶版になりましたけれども、それ等のものを苦勞して探求される迄もなく、それらのエキスは全部新らしき革袋に盛られて

靈學筌蹄 天行林 古神道秘説 神界の經綸と天行居の出現

の四著として現はれて居ります。天行居の信念とその主張が正しいか否かは心を潜めて右の四著の中どれでも一冊を通讀されるならば判明することで、恐らく眼睛一瞬に換却して久貧一時に富むの感がありませう。けれども天下至變の中心たる天行居刻々の動きを知らんとせられるには機關誌たる「古道」を讀まなければなりません。また、天行居の主張信念に共鳴せられて「靈的國防の聖戰」に参加し、生きた敬神尊皇に終始せられんとするならば、格神講に入つて天行居の同志となれることをお勧め致します。』

#### 一四、結縁の手續

客『天行居の同志となるには何ういふ手續をとれば宜しいのですか。』

對『所定の誓約書に天行居同志一名以上の紹介者と共に署名捺印せられ、入講金（參圓）を添へて天行居本部へ申込まれますと、本部では詮衡の上諾否を決定致します。同志は「神法の傳書」と「奥傳籙」の頒授を受け、修齋會に参加して傳法を受ける外種々の修道上の便宜があり、天行神軍男子現役士官は重祕の神事たる山上夜間特別修法に参加する資格があります。』

客『差し當り「古道」を購讀して天行居に對する認識を深め、その上で入講するのが順序ではないでせうか。』

對『ところが「古道」は主として同志を對象として發行されて居る機關紙でありますから、天行居に於て既に常識となつて居る事項に關しては説明を省略いたします。従つて初心の人がこれのみによつて天行居を知ることが困難ではないかと思ひます。天行居の同志は例外なく「古道」を購讀しそれによつて本部の動靜を知り、また修道上の指導を受けつゝあることは勿論のことでありますが、單なる「古道」の購讀のみによつて貴下の道念が確立し、天賦の靈性が開發せられるとは期待できません。やはり正式に入講して神界の中府に結縁されることが修道上の捷徑であると思ひます。』

古道購讀料は〔甲種 一ケ年 金五圓〕〔乙種 一ケ年 金壹圓八拾錢〕であります。

甲種讀者は他の會などに於ける所謂贊助會員と思つていただけば大した違ひはないと思ひます。これに對しては多少の特典めきたることもありますけれども、それは購讀期間更新毎にその都度決定されますので豫め申上げて置く譯には行きません。

入講の際入講金を頂戴することは神祇奉祀團體たる天行居としてはこれを理想的な制度だといふではありませんけれども、かういふ團體を甲から乙へと遊歴して歩くルンペン諸君や、ひやかし半分の人々を防止するためにも、此の程度の門構へは今日の場合已むを得ないといふことを御諒解願ひたいのであります。また尊く正しき神法道術は猥りに傳法すべからざる幽理も存するからであります。入講者に御傳へする「傳書」及び「奥傳籙」は何れも山緒正しき正法でありまして、これによつて各自の御家庭に於て實修せられますと神祕の堂奥に達することが出来ます。天行居はその出現の使命上、こちらから進んででも然るべき人達には是非神法道術をお授けして、來るべき大時節に活躍していただきたいと言ふ念願に燃えて居る位なのであります。天行居の神法には一法たりともいかにほしいものはありません。傳書の内容を簡単に申上げますれば

### (イ) 鎮魂歸神の秘印

印は「瓜櫛の契」でありまして密教の専賣品などの如きものではありません。天行居で傳へる印は普通に「秘印」と申して鎮魂、歸神、祈願の際に組むのでありますが、その組み方は鮮明なる寫眞で説明してありますから聊かも不明不審の點はありません。正しき神法と正しき秘印とに就ては天行居の出版物を精讀されるならばよくお分りになる筈であります。

(ロ) 將城奈我の法

これは本田親徳先生密授の秘法でありまして此の法によれば鎮魂の成就しないといふことはありませぬ。

(ハ) 魂布禰の術

此の術は神人感通の速達法でありまして眞言秘密事の最極意とするところも遂に此の神術には遠く及びません。直接の指導者に就かず自修に依つて神人感合の妙境に入る秘法で、修業に必要な繪圖を添付して詳しく説明してあります。

(ニ) 神傳靈學秘言四種

四種の秘言に就て其の目的と活用法とが委曲説明してあります。

(ホ) 天眼氷釋

これは佛門に於ける天眼修業法を説いた代表的の秘文であります。殆んど世間に傳はつて居りませんから、他山の石として特に會員に頒つものであります。

(ヘ) 産土百首

苟くも天行居同志たるものは産土の神に就て正しき認識がなければなりません。これは本田先師が一代の蘊蓄を傾倒せられ、潔齋沐浴して詠まれたものであります。

(ト) 靈魂百首

同じく本田先師の秘作で靈魂の作用に就て三十一文字を以て講明せられたもの。

(チ) 講員證

(リ) 神傳秘言

本田先師の巻物の全文也

奥傳錄第一冊

これは太古神法の傳法秘帖でありますから詳説いたしませぬが、天行居の諸々の神事に參加される同志は必ず一巻を備へて置かれねばなりません。

これで天行居の外廓だけは不完全ながら申上げたつもりですが、御得心が行きましたら一つ

此の際正式に入講の上更らに研究されたら如何ですか。』  
客『では私も早速入講させて頂くことに致します。』

### 十言の神咒

對『入講されたらあなたも先づ最近のうちに修齋會に参加されることですね。』  
客『ところが近來俗事多端で、それも道のために敢て厭ひませぬが周囲のものに對する關係もありまして急には参られぬかと思ひます。』

對『あまり一度に無理をされるのも感服いたしませんから、それでは入講の上傳書によつて修業せられ、産土神社に心がけて参拜し、殊に正午と午後八時とは「十言の神咒」を熱唱されることをお勧めいたします。此の神咒は修齋課目の一つにもなつて居る位で、天照大御神様の大神名——アマテラスオホミカミの十言を繰り返し／＼奉唱するのであります。聲の大小緩急はその人、その場合によられて差支へありません。これは御神名であると共に神咒と申すものであります。して、十言の神咒を奉唱することは、最尊、最貴の神の王に呼びかけ奉る言葉でありましてその廣大無邊の威力は、かの理神の名を稱へる念佛や書籍の題意を喚く題目などの比ではありませぬ。』

ぬ。神威、神徳の有無に關して、言はまくも畏き。大日本天皇の宗祖の御名奉唱を、念佛題目と比較するのは甚だ不謹慎のやうでありますけれども、日夜至信に神咒を奉唱して御覽なさい。眼前の風物漸く新たにしてあなた自身がきつと驚かれるでせう。早い話があなたの修齋参加のことでも、神咒を奉唱して居られますと、何時とはなしに自然に修齋に行かれるやうな段取りになつて参ります。勿論、正しき神祇の大前ならば何神様に對し奉つて奉唱しても宜しいもので大神達には眞にこれをうべなひきこしめすのであります。』

客『特に正午と午後八時とに奉唱するのは如何なる理由によるものですか。』  
對『十言の神咒は隨時隨處で奉唱することが望ましいのですが、天行居では同志の靈的結合を固くし、其の「イブリ」を強くするため「結靈の時」を制定して毎日一回、正午から三分間だけ同志一同の者が一心一念に凝り固つて奉唱することになつて居ります。これは

- (一) 皇室の御安泰彌榮のため
- (二) 國力の充實、國威の發揚のため
- (三) 幽顯兩界の生類が正義に反省歸順せんがため
- (四) 同志相互の清潔なる幸福のため

に祈るのであります。鐵を取つて田園に立つ者も十露盤を握つて店頭に坐するものも、官廳に勤めるものも、病床に休める者も正午を合圖に三分間至信に實行し、千里の遠きに在る同志も總て一堂に在る覺悟を以て、天照大御神の靈光の中に毎日一回必らず靈魂の手を握り合ふのであります。これは昭和五年六月一日の正午から始めて居ります。これは私ども人間が奉唱して居るばかりでなく——斯ういふことは餘り申したくありませんが——神集岳の大永宮から發令せられて、八百萬の神々も同時刻に奉唱して居られるやうに承つて居ります。詳しくは「神界の經綸」と天行居の出現」をお読み下さい。

又た午後八時の神咒は十分以上三十分間で、これは刻下の微妙なる國際關係を我が皇國日本に有利に展開せしめるために昭和六年以來これを奉唱して居るのであります。天行居では年來この十言の神咒奉唱を提唱し學校や修養團體で奉唱するやうに色々骨折つて居るのですが、努力不足のためか未だ天下の聲となすに至りませぬ。これは決して天行居の宣傳のためにやつて居るのではないので、何處が神咒の自家だなどいふケチな問題でなく、神咒奉唱の聲が全國津々浦々に響するやうになれば、そればかりでも天の岩戸は開かれて 大日本天皇の大御光は地上全土を蔽ふのであります。アマテラスオホミカミ……』。

道しるべ

- ◇神道天行居は山口縣(周防國)熊毛郡田布施町石城山麓に在ります。
- ◇山陽本線麻里布驛(下り)又は徳山驛(上り)から柳井線(柳井線經由の東京・下關行もあります)に乗つて田布施驛で下車し、北に行くこと二十丁にして因縁の靈地石城山があり、その山頂には世界總鎮守の日本神社がありまして、こゝに 天照大御神様を中心に歴代皇孫尊、八百萬神がお鎮りになつて居られるのであります。
- ◇神道天行居本部はその山麓にあつて、そこに修齋道場も宿舍もあります。同志の方は東上西下の途次は、是非本部を訪問せられ、石城の神山に登拜して一日も早く此の太古以來の因縁の靈地に結縁して頂きたいと存じます。
- ◇自動車(タクシー)は田布施驛から本部迄八拾錢で参りますが、至極分り易い道でありますし、徒歩で歩かれても大したみちのりではありません。

× 神道天行居本部の振替口座は『大阪六六六三七番』で  
× 電話は田布施『九番』であります。





ひふみよむなやことたりことたりて  
いはきのやまはかみつとよやま  
秀

駅直場間約24丁  
自御車便あり  
道場より山上まで23丁  
●●●●●  
伊弉册石  
●●●●●(山麓の穴)

御車便あり  
東京方面

**おねがひ**  
此の小冊子を讀まれた方はこれをなるべく多數の人に讀ませたいと存じます。もしも此の  
小冊子が長夜の闇にさまよへる世人の爲めに一道の光明となるならば、若しも本書が精神的飢渴に陥  
れる隣人に對する一片のパンとなるならば、本書上梓の目的は半ば達せられたと申しても差支へあ  
りません。機縁は常に貴下の身邊を去らして居りますけれども、之れを捉へると否とは瞬間にありま  
す。本書を手にせられて一讀一決直ちに道山に向つて杖を曳かれますならば、須臾にして山上また秀嶺  
あるを見て歡喜の叫びをあげられるであらうことを確信いたします。

切取線 (他の紙を用ひらるゝも差支へなし)

神道天行居格神講入講誓約書

現住所	フリカナ
本籍	フリカナ
職業	所屬支部名
	支部名
	氏名(雅)
	フリカナ
	生年月
	年 月 日
	當 歳

私儀今般神道天行居格神講ニ入講致候ニ付テハ同志トシテ天行居ノ諸規則ヲ遵守シ忠肝義膽  
ヲ以テ君國ニ報ズルハ勿論自今御傳授ノ太古神法及神傳ノ祕事等ハ猥リニ他傳シ又ハ之ヲ不  
正ノ方面ニ使用セザルコトヲ神カケテ誓約候也

昭和 年 月 日 氏 名

右紹介人

神道天行居御中

■神々の恩寵 神傳祕事の相傳！  
■神界の經綸 神仙の祕區闢かる！

# 天行居修齋會

期間七日間  
會費金拾圓  
(舍費食費共)

修齋會に就ては『修齋會と神法の相傳』參照のこと

場 所 神道天行居石城山道場  
期 間 毎月六日より十二日迄七日間  
但し五月及び十一月は廿一日より廿七日迄

參加資格 神道天行居同志(男女を問はず)  
行 事 神府との結縁、修法指導、傳法其の他

右修齋會に参加希望の同志は郵便を以て照會せられ修道部の承諾通知を得られたる方に限り遅くとも開會前日迄に道場へ到着出来るやう出發せられたし。

■同志の光榮 神集岳の現界的齋庭との結縁  
■人類の福音 靈的國防軍士官學校開かる

▽靈的見地に立てる古神道の研究機關

購讀料

一年壹圓八拾錢  
半年壹圓

古道合本

昭和三、四、七、八、九年度合本  
各定價壹圓廿錢  
(送料共)

刊 月

# 古神道

## 天行居神拜祝詞

神拜祝詞 全 (ホケツト用)

## 十言の神呪

天津祝詞、大祓詞、天行居神拜祝詞、石城山遙拜詞、祖靈拜詞、天行居信條を含む。  
綴子表裝折本仕立、定價六拾錢  
天津祝詞、大祓詞、神拜詞、信條を含み携帶に至便、定價拾錢  
天行居パンフレット叢書第二輯  
天照大御神の大御名十言の神呪に就て詳説す。定價金拾錢

### ◎本書出でて大小の群魔悉く戦慄す!!!

友清歡眞先生著 神道天行居藏版

忽ち  
六版

# 靈學筌蹄

普及版  
四六版三〇八頁  
定價金八拾錢  
(送料共)

本書は著者が一大覺悟を以て某靈山に參詣し、潔齋して筆を執り直接に神示を仰ぎつゝ、稿を纏めたるものにして、古傳の五大神法の解説を主流とする神道靈學の入門書である。内容は神道靈學の目的、宗源、神とは何ぞや、運命とは何か等に就て詳述し、鎮魂法、歸神法、音靈法、名靈法、神卜法を講じ、世の低級にしてインチキ極まる俗靈術の徒をして顔色なからしめて居るのみならず、本書は實にそれ等俗流靈術家の秘密の寶典として尊重されて居る程で靈學研究家必讀の書である。

### 目次

序 論：靈學の宗源—靈學研究法に就て  
神靈と人……神とは何ぞや—神界から借金等  
神機と運命…運命とは何ぞや—運命改造法外  
鎮魂法…鎮魂の修法—鎮魂と治病—九字外  
歸神法…歸神の實例—憑靈の區別—石筍等  
音靈法…音靈法とは何か—修業の方法等  
名靈法…所謂姓名判斷の迷蒙と名靈の神祕  
神卜法…卜は神事の宗源—元數盤の大發見  
結語。附録。本田親徳翁遺稿註譯。

### ◎邪靈邪法を弄する者顔色なし!!!

◎神道靈學の奧義講傳・神扉開顯の秘鍵！

『靈學筌蹄』の姉妹篇 神道天行居藏版

重版  
重版  
又重版

天 行 林

普及版  
四六版四二四頁  
定價壹圓參拾錢

全篇千支十二林二十二章に分ち、靈魂及び物質の本質に筆を起し、死とは何ぞや、死後は如何に死者と生者との關係に神界と死者の靈魂との交渉に就て具體的に解説し、進んで靈魂歸神の極秘事について前代未聞の眞理を闡明し、自他の靈的治病法について類例なき秘訣を大膽に公開して何人にも直ちに實行するを得しめ、又た甲州流軍學の秘卷―乙中甲大事口訣相傳の全文を惜むところなく收め、更に神傳の天地御柱傳を講じ、音靈法を細説し、靈的見地よりする『日本神國論』に至りては著者の忠魂紙上に躍動するを見る。更ら

◎神傳秘笈の開放・神通自在の秘卷！

に惟神の道に就ては靈的見地より縦論横説し以て、一毫の疑義なからしめ、神國民としての眞の安心立命の住所を指示し來るべき世界の眞の變動に關して其の内容を發表し、又た元數盤の秘義を説き元數盤より周流發展せる年靈盤（神名木車）の圖を添付して研究上の遺憾なからしめんことを期して居る。  
本書は『靈學筌蹄』の姉妹篇にして神道靈學の奧傳書なれども『身を以て國難に當らん』といふ盡忠報國の精神全卷を貫き、天行居の靈的國防の萌芽は既に本書に於て之れを見る事ができるのである。

◎天皇神聖の本義・本書に於て始めて完し!!!

無方齋先生講述 神道天行居藏版

初版  
再賣版

古神道秘説

並製  
四六版四五〇頁  
定價壹圓七拾錢  
(送料共)

本書は友清無方齋先生の講傳を結果したもので、靈的見地から敬神尊皇の大義を光宣し前人の曾て夢想だにせざる正しき神傳の『神ながらの道』を人類の使用する文字によつて表現せられたるもので、神人の關係、神國日本の由来、生死の秘機、靈魂の出自歸着、顯界と幽界との交渉、所謂人類世界の立替へ立直し、修道の正邪、神法卜占等縱論横説に及ぶるなく、和漢古今の聖賢、東西の經典全卷に出場して而も整然と活動し遂に天祖、天皇の御秘威に攝取せらるゝ非嚴は讀者をして眞の

宇宙の大道に引入せしんば止まざる天下稀有の名著である。殊に『大日本天皇は天祖の人間世界に於ける御表現なり』と斷ずるあたりの、紙上の文字は悉く光明を放ちて四海を照すの概あり、而して『天行居夜話』九篇は對話體を以て書かれ最も親しみ易く章を追うて進めば眼界漸く開け、山川草木次第に新たなるを覺ゆるであらう。  
卷末『異境備忘録』は宮地堅誓先生の正神界出入の手記で斯界に一大センセーションを捲き起した秘録である。殘本少數。

◎異境備忘録により神界の實相始めて明瞭!!!

◎見よ！神霧を闢いて光宣せらる天啓の大思想を

氣玉彦先生著 神道天行居藏版

初版賣切  
再版近刊

神界の經綸と天行居の出現

最上クローズ装釘  
菊版約七五〇頁  
定價金貳圓五拾錢  
(送料共)

本書は石城山道場開設以後に於ける氣玉彦先生の講述を輯載したもので、神儒佛耶回その他諸々大小幾百千の宗教又は靈團の異動を超越し、日本臣民たる者の齊しく心を空しうして必讀すべき金文字を以て満たされて居る。今は抑も如何なる秋である乎。世界の生きとし活ける者は如何なる立場に置かれて居るのである乎。明日の世界は如何？明後日の地上の生類は如何？これら、人類の大小公私一切の疑問に應答すべく天神地祇

の訶護幽贊によつて天地間に出でたものこそ本書である。國と國とは深刻に戦ひ地上は水火によつて徹底的に清めらるべし。而して顯幽兩界の主宰神に坐す 天祖の御正流大日本天皇陛下の世界君臨を如實に仰ぐべし。これ荒誕無稽の讒語に非ずして世界人類必到の運命である。本書は神示を中心に縦横の靈筆を揮ひ、日本忠道を説いては儒夫を立たしめ、靈魂の歸趨を示しては人類の安心を確立せしむ。正に天下第一の書である。

◎日本天皇世界光臨・世界の大機は近づけり！

天行居パンフレット叢書  
第一

定價 金 拾 錢

昭和十年五月十七日印刷  
昭和十年五月二十日發行

不許

複製

山口縣田布施町大字實前一二四八

發行兼印刷人 益野倍太郎

山口縣田布施町 石城山麓

發行所 神道天行居

振替大阪六六六三七番  
電話田布施九番

## 宣 言

- キリスト教日本國に入りて僅かに三百六十九年
- それ以前の吾等の祖先は總てキリスト教と交渉無し
- 佛教日本國に入りて僅かに千三百七十六年
- それ以前の吾等の祖先は總て佛教と交渉無し
- 天國も極樂も地獄も總て關する處なし
- それより以前の天皇、皇族、聖賢、英雄、名將、忠臣、義士、孝子、美人、すべてキリスト教と佛教とに交渉あること無し
- 吾等は須らく祖先の信仰に歸り眼界を大にして神武天皇に歸らざる可らず
- 天照大御神に歸らざる可らず
- 是れ昭和日本國民全員の大自覺たらざる可らず
- この祖先の信仰に歸る道を指すものは實に我が天行居なり
- 天行居の這の大使命遂行の爲めに神代以來準備されたる聖地こそ實に我が石城山なり

— 昭和三年四月 —

### 天行居の四大綱領

- (1) 日本は神國の中の神國也
- (2) 日本天皇は天に於ける神の王の人間世界に於ける表現なり
- (3) 石城山は地の神界大都の現世界に於ける表現地なり
- (4) 以上の三大事實立證のために神々の經綸は天行居の出現となる

終

